

本書の構成

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

第2章 セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

第3章 ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

第4章 BIOS

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

第5章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
本書の表記	5
第1章 各部名称	
1 各部の名称と働き	10
パソコン本体上面	10
パソコン本体右側面	12
パソコン本体左側面	12
パソコン本体上側面	14
パソコン本体下面	16
ドッキングステーション	17
2 状態表示 LED について	20
3 タブレットボタンについて	22
第2章 セキュリティ	
1 セキュリティについて	26
2 ネットワーク接続時のセキュリティ	28
コンピュータウイルス	28
通信データの暗号化	28
ワイヤレス LAN 使用時の通信データの暗号化	28
ファイアウォール	29
3 不正使用からのセキュリティ	30
Windows のパスワード	30
管理者権限とユーザーアカウント	30
アクセス権と暗号化	30
BIOS のパスワード	31
4 パソコンの盗難防止	32
5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ	33
パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関する ご注意	33
ハードディスクのデータ消去サービスについて	34
第3章 ハードウェア	
1 周辺機器を取り付ける前に	36
取り扱い上の注意	36
2 ポインティングデバイスについて	37
タッチパネルについて	37
ペン先の交換方法	39

3 キーボードについて	40
ワイヤレスキーボードについて	40
USB キーボードの接続について	43
OADG キーボード	44
4 バッテリーについて	46
バッテリーを充電する	46
バッテリーを運用する	46
バッテリー残量を確認する	47
取り扱い上の注意	49
バッテリーパックを交換する	50
コアの取り付け	51
5 CD について	52
取り扱い上の注意	52
CD をセットする／取り出す	53
6 ドッキングステーションについて	56
ドッキングステーションを取り付ける	56
ドッキングステーションを取り外す	58
7 メモリについて	59
メモリを交換する	59
8 PC カードについて	62
取り扱い上の注意	62
PC カードをセットする	62
PC カードを取り出す	63
9 外部ディスプレイについて	65
接続について	65
10 ハードウェアのお手入れ	67
パソコン本体のお手入れ	67
液晶ディスプレイのお手入れ	67

第 4 章 BIOS

1 BIOS セットアップとは	70
2 BIOS セットアップの操作のしかた	71
BIOS セットアップを起動する	71
設定を変更する	73
各キーの役割	75
BIOS セットアップを終了する	76
3 メニュー詳細	77
メインメニュー	77
詳細メニュー	78
セキュリティメニュー	79
省電力メニュー	81
起動メニュー	81
情報メニュー	82


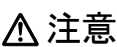
終了メニュー	82
4 BIOS のパスワード機能を使う	83
パスワードの種類	83
パスワードを設定する	83
パスワードを忘れてしまったら	84
パスワードを変更／削除する	85
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	86
メッセージが表示されたときは	86
メッセージ一覧	87
第 5 章 技術情報	
1 仕様一覧	94
本体仕様	94
2 コネクタのピン配列と信号名	97
索引	99

本書をお読みになる前に




本書の表記

■ 警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

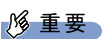

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■ コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROMドライブ]:¥setup.exe
```

■ 画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■ 連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをタップし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をタップする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にタップします。

■ BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。また、設定値を「:」（コロン）の後に記述する場合があります。

例：「メイン」メニューの「言語 (Language)」の項目を「日本語 (JP)」に設定します。

↓

「メイン」 - 「言語 (Language)」: 日本語 (JP)

■ キーボード、フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブ

キーボード、フロッピーディスクドライブ、CD-ROM ドライブが必要な操作では、別売の周辺機器を用意してください。使用できる周辺機器については、『システム構成図』をご覧ください。

周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■ お問い合わせ先 / URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2003 年 5 月現在のものです。変更されている場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」へお問い合わせください（→『取扱説明書』参照）。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記		
Microsoft® Windows® XP Tablet PC Edition	Windows XP Tablet PC Edition	Windows XP	Windows
Norton AntiVirus™ 2003	AntiVirus		
VERITAS RecordNow DX4.6	RecordNow		
WinDVD™ 4	WinDVD		
Adobe® Acrobat® Reader 5.1	Acrobat Reader		

■ 機種名表記

本文中の機種名を、次のように略して表記します。

機種名	本文中の表記
FMV-STYLISTIC TB93/B	本パソコン パソコン本体

Microsoft、Windows、MS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。
Phoenix は、米国 Phoenix Technologies 社の登録商標です。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003
画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

Memo

第 1 章

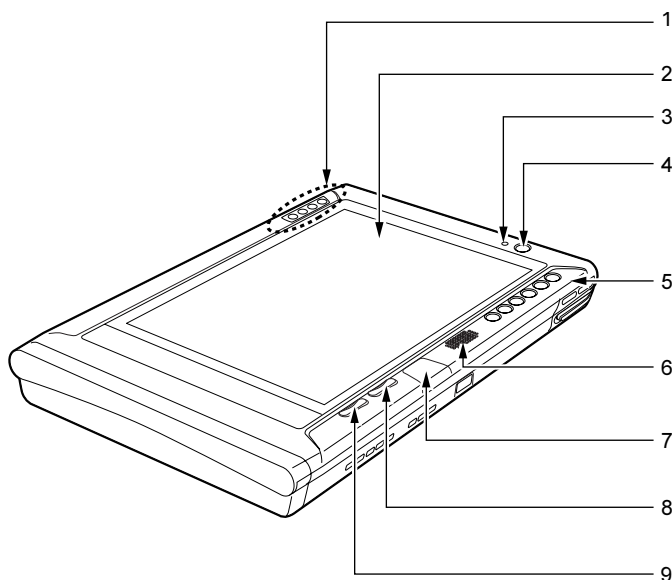
各部名称

各部の名称と働きについて説明しています。

1 各部の名称と働き	10
2 状態表示 LED について	20
3 タブレットボタンについて	22

1 各部の名称と働き

パソコン本体上面



1 状態表示 LED

本パソコンの状態が表示されます。

「各部名称」－「状態表示 LED について」(→ P.20)

2 液晶ディスプレイ

本パソコンの画面を表示します。

本パソコンは、液晶ディスプレイ上面にタッチパネルが搭載されています。

「ハードウェア」－「タッチパネルについて」(→ P.37)

POINT

▶ 液晶ディスプレイの特性について

以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・本パソコンで使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

3 内蔵マイク

音声（モノラル）を録音できます。

POINT

- ▶ カラオケソフトなど、マイクとスピーカーを同時に使用するソフトウェアをお使いの場合、ハウリングが起きることがあります。このようなときは、音量を調整するか、市販のヘッドホンや外付けマイクをお使いください。また、マイクを使用していないときは、マイクを「ミュート」（消音）にしてください（「機能」－「音量の設定」）。
- ▶ 内蔵マイクから録音する場合、音源との距離や方向によっては、音がひろいにくい場合があります。クリアな音声で録音したい場合には、外付けマイクを使用されることをお勧めします。

4 電源ボタン

パソコン本体の電源を入れたり、スタンバイ（中断）／レジューム（回復）させるためのスイッチです。

5 タブレットボタン

ボタンを押すだけで、アプリケーションの起動や E メール受信などを行うことができます。

6 スピーカー

本パソコンの音声が出力されます。

「機能」－「音量の設定」

7 ワイヤレスキーボード受光部

ワイヤレスキーボードの赤外線信号を受信します。

「ハードウェア」－「ワイヤレスキーボードについて」（→ P.40）

8 Page Up/Page Down ボタン

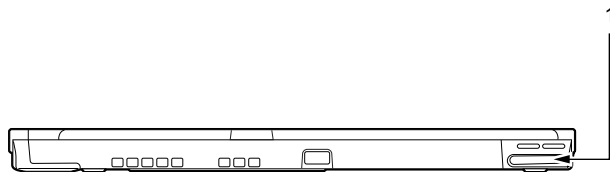
前のページ、または次のページに切り替えるときに使います。

タブレットボタンの「Fn」ボタンを押しながらこのボタンを押すと、カーソルは左右に移動します。

9 カーソルボタン

カーソルを上下に移動するときに使います。タブレットボタンの「Fn」ボタンを押しながらこのボタンを押すと、キーボードの【Tab】キーと同じ動作をします。

パソコン本体右側面

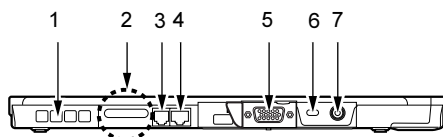


1 ペン収納スロット

ペンを収納するスロットです。

「ハードウェア」－「タッチパネルについて」(→ P.37)

パソコン本体左側面



重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 排気孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすためのものです。

パソコンの電源を入れると、内部のファンが数秒間回転します。また、パソコン本体内部の温度が高くなると内部のファンが回転し、熱が放出されます。

注意



故障

- 排気孔はふさがらないでください。
内部に熱がこもり、故障の原因となることがあります。

重要

- ▶ 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。

2 内蔵ワイヤレス LAN アンテナ

ワイヤレス LAN 用のアンテナが内蔵されています。本パソコンの使用時、特にワイヤレス LAN で通信中はアンテナ部分には極力触れないでください。

また、本パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所は避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。

POINT

- ▶ ワイヤレス LAN について詳しくは、『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ(IEEE802.11b 準拠)』をご覧ください。

3 モデムコネクタ

モジュラーケーブルを接続するためのコネクタです。

「機能」－「内蔵モデムについて」

4 LAN コネクタ

LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

別売のドッキングステーション接続時には、ドッキングステーションの LAN コネクタをお使いください。

「機能」－「内蔵 LAN について」

5 外部ディスプレイコネクタ

CRT ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

別売のドッキングステーション接続時には、ドッキングステーションの外部ディスプレイコネクタをお使いください。

「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」(→ P.65)

6 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- ▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
商品名：SLIM MICROSAVER
商品番号：0522011
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

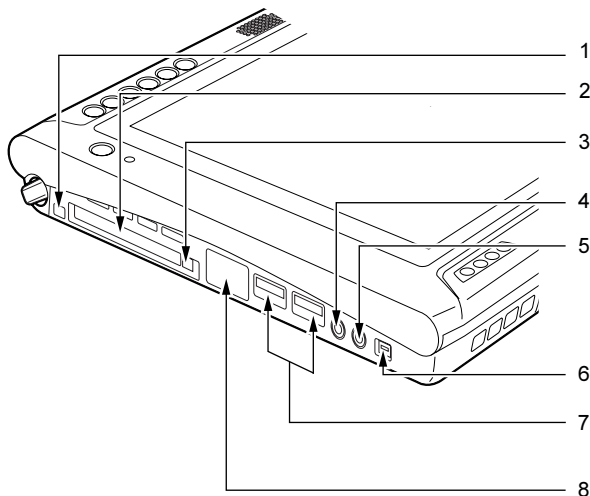
7 DC-IN コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

AC アダプタを接続する前に、添付のコアを AC アダプタのケーブルに取り付けてください。

「ハードウェア」－「コアの取り付け」(→ P.51)

パソコン本体上側面



重要

▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

1 ペンひも取り付け用穴

ペンひもを本体に取りつけるための穴です。

2 PC カードスロット

PC カードをセットするためのスロットです。

「ハードウェア」－「PC カードをセットする」(→ P.62)

3 PC カード取り出しボタン

PC カードを取り出すとき、添付のペンの背で押します。

「ハードウェア」－「PC カードを取り出す」(→ P.63)

注意

聴力障害



● マイク端子、ヘッドホン端子に接続するときは、パソコン本体の音量を最小にしてから接続してください。

機器が破損したり、刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

4 マイク端子

市販のマイクを接続し、音声(モノラル)を録音するための端子です(外径 3.5mm のミニプラグに対応)。

ただし、市販されているマイクの一部の機種(ダイナミックマイクなど)には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。

5 ヘッドホン端子

市販のヘッドホンを接続するための端子です（外径 3.5mm のミニプラグに対応）。ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。

注意

聴力障害



- ヘッドホンなどをお使いになるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

聴力障害



- ヘッドホンなどをしたまま電源を入れたり切ったりしないでください。刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

6 IEEE1394 端子

IEEE1394 規格の周辺機器を接続するコネクタです。

7 USB コネクタ

FDD ユニット (USB) や USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。2 ポートあります。USB 規格の周辺機器をどちらのポートに接続してもかまいません。

本パソコンの USB コネクタは、USB1.1 準拠です。USB2.0 には対応しておりません。

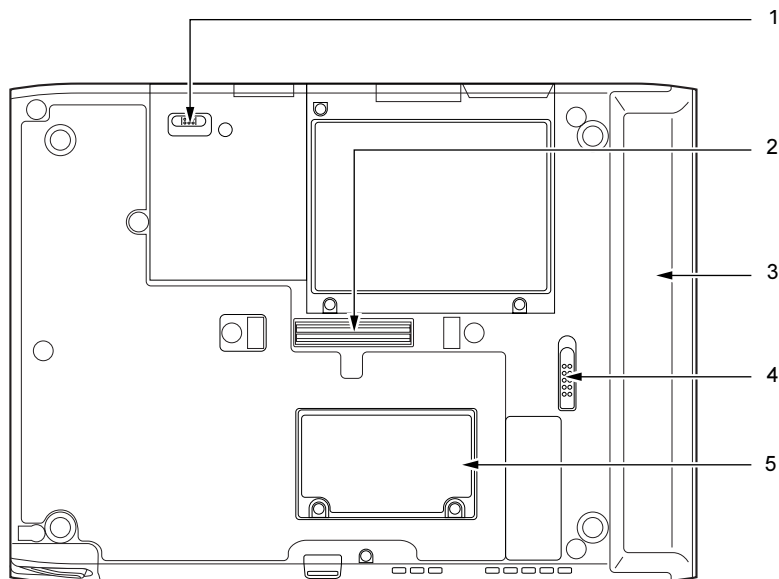
8 赤外線通信ポート

赤外線通信を行うためのインターフェースです。

POINT

- ▶ 赤外線通信ポートは、「ワイヤレスリンク」にてお使いになれます。
- ▶ 赤外線通信を行っているときは、赤外線通信ポートにACアダプタや外部ディスプレイを近づけないでください。ノイズによる誤動作の原因となります。

パソコン本体下面



1 ワイヤレススイッチ

ワイヤレス LAN による通信機能の ON と OFF を切り替えます。病院や飛行機内、その他電子機器使用の規制がある場所では、スイッチを OFF にしてください。

POINT

- ▶ ワイヤレス LAN について詳しくは、『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ(IEEE802.11b 準拠)』をご覧ください。

2 ドッキングステーション接続コネクタ

ドッキングステーションを接続するためのコネクタです。
「ハードウェア」－「ドッキングステーションについて」(→ P.56)

3 内蔵バッテリーパック

内蔵バッテリーパックが装着されています。
「ハードウェア」－「バッテリーパックを交換する」(→ P.50)

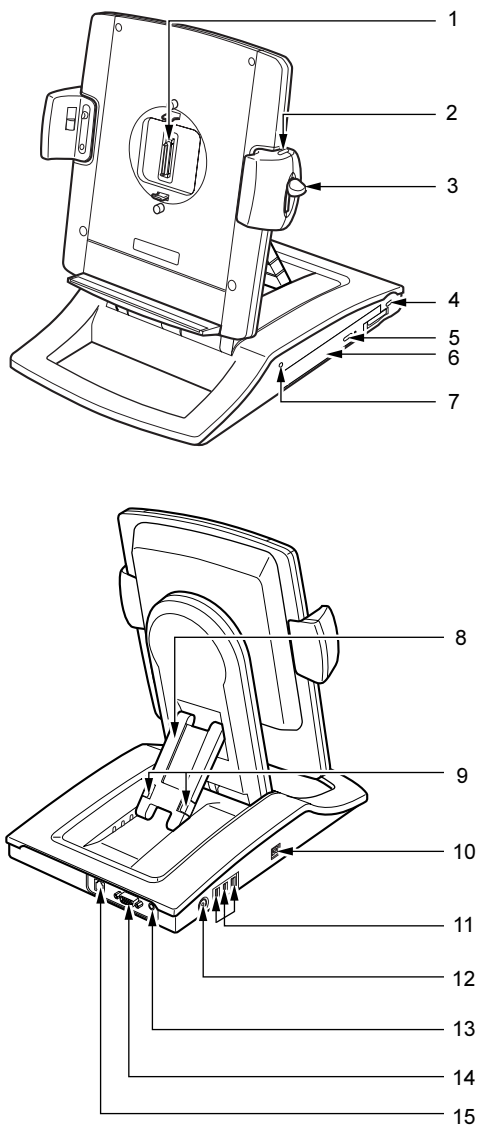
4 内蔵バッテリーパックロック

内蔵バッテリーパックを取り外すときにスライドさせます。

5 拡張 RAM モジュールスロット

本パソコンのメモリが取り付けられています。
取り付けられているメモリを交換して、メモリを増やすこともできます。
「ハードウェア」－「メモリについて」(→ P.59)

ドッキングステーション



重要

- ▶ 各コネクタに周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ▶ ドッキングステーション接続時には、パソコン本体のLANコネクタ、外部ディスプレイコネクタ、ワイヤレススイッチはお使いになれません。

1 本体接続コネクタ

パソコン本体と接続するためのコネクタです。

警告



- 本体接続コネクタに手を触れないでください。異物（金属片、液体など）が入らないようにしてください。
感電・火災・故障の原因になります。

2 ロック解除ボタン

ロックレバーのロックを解除する場合に押します。

3 ロックレバー

本体を取り付けるときは、下にスライドしてロックします。本体を取り外すときは、ロック解除ボタンを押しながら上にスライドして、ロックを解除します。

4 盗難防止用ロック

市販の盗難防止用ケーブルを接続することができます。

POINT

- ▶ 盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。
商品名：SLIM MICROSAVER
商品番号：0522011
(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

5 CD 取り出しボタン

CD ドライブにディスクをセットしたり取り出すときに押します。

6 DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ

CD/DVD の情報を読み出したり、音楽 CD や DVD-VIDEO の再生などを行うことができます。

「ハードウェア」－「CD について」(→ P.52)

POINT

- ▶ DVD-ROM&CD-R/RW ドライブをお使いになる場合は、『DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、CD-R/RW ドライブをお使いになる方へ』もあわせてご覧ください。

7 CD アクセスランプ

CD-ROM や DVD-ROM からデータを読み込んでいるときや CD-R/RW ディスクにデータを書き込んでいるとき、音楽 CD を再生しているときに点滅します。

8 角度調節バー

角度を調整します。

9 角度調節バー固定／解除ボタン

角度調節バーで角度を調節するときに押します。

10 IEEE1394 端子

IEEE1394 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

11 USB コネクタ

FDD ユニット (USB) や、USB 接続に対応したプリンタなど、USB 規格の周辺機器を接続するためのコネクタです。

12 DC-IN コネクタ

添付の AC アダプタを接続するためのコネクタです。

AC アダプタを接続する前に、添付のコアを AC アダプタのケーブルに取り付けてください。

「ハードウェア」－「コアの取り付け」(→ P.51)

13 ラインアウト端子

オーディオ機器などの音声入力端子を接続します。

14 外部ディスプレイコネクタ

CRT ディスプレイなど、外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

「ハードウェア」－「外部ディスプレイについて」(→ P.65)

15 LAN コネクタ

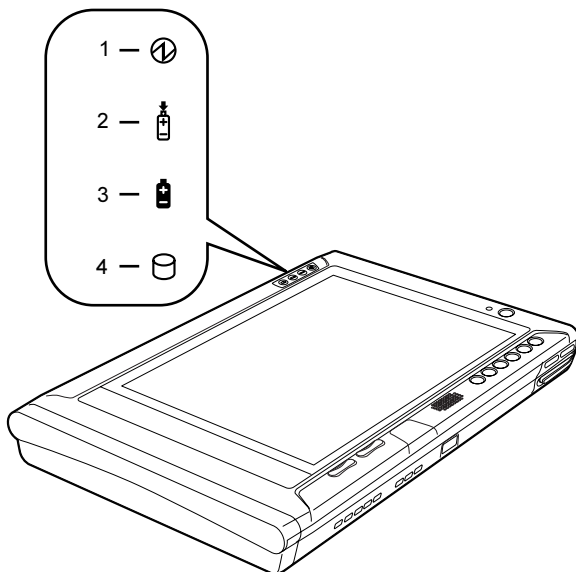
LAN ケーブルを接続するためのコネクタです。

「機能」－「内蔵 LAN について」

POINT

- ▶ ドッキングステーションは、パソコン本体の電源が入っているときでも、取り付け、取り外しができます。通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「内蔵 DVD/CD ドライブ」や「USB オプション」を「停止」にしてから取り外してください。

2 状態表示 LED について



1 電源ランプ

本パソコンの状態を表示します。

LED 表示	パソコン本体の状態
グリーン点灯	動作状態
グリーン点滅	スタンバイ
消灯	電源 OFF または休止状態

2 バッテリー充電表示ランプ

本パソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリーパックの充電状態を表示します。

LED 表示	バッテリーパックの充電状態
グリーン点灯	充電終了またはバッテリーパック未装着で非充電
オレンジ点灯	充電中
オレンジ点滅	充電停止中 (バッテリー温度アラーム時など ^注)
消灯	AC アダプタ未接続により充電動作なし

注: バッテリー温度アラームとは、内蔵バッテリーパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなった場合に、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止することです。

3 バッテリー残量表示ランプ

本パソコンに接続されている内蔵バッテリーパックの残量を表示します。

LED 表示	バッテリーの状態
グリーン点灯	バッテリー残量 100～51% ^注
オレンジ点灯	バッテリー残量 50～13% ^注
レッド点灯	バッテリー残量 12%以下 ^注
オレンジ点滅	バッテリー残量計測中（内蔵バッテリーパック装着後 4 秒間）
レッド点滅	バッテリー異常時
消灯	バッテリー未接続時またはバッテリー残量 0%

注：動作状態またはバッテリー充電中。

POINT

- ▶ 電源 OFF 時に内蔵バッテリーパックを装着すると、バッテリー残量表示ランプはオレンジ点滅後、そのときのバッテリー残量を 5 秒間表示します。
なお、内蔵バッテリーパックが充電されていない場合はそのまま消灯します。
- ▶ スタンバイでバッテリーを充電していないときは、LED 表示が点灯ではなく点滅になります。その場合の点滅の間隔は、1 秒間点灯し、5 秒間消灯となります。
- ▶ バッテリー残量が 0% の場合、電源が入りません。AC アダプタを接続し、充電してからお使いください。

4 ハードディスクアクセスランプ

本パソコンの内蔵ハードディスクにアクセスしている場合に表示します。

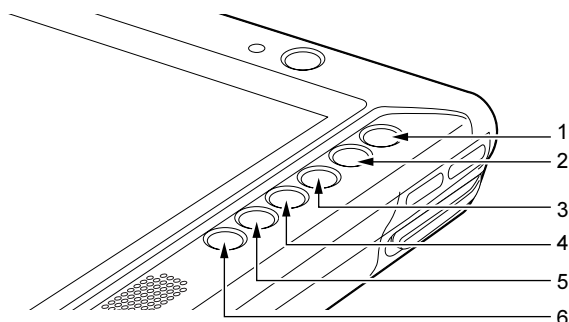
LED 表示	ハードディスクアクセス状態
グリーン点灯	ハードディスクアクセス中
消灯	ハードディスクアクセスなし

POINT

- ▶ ハードディスクアクセスランプが点灯中は、電源ボタンを押さないでください。ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。

3 タブレットボタンについて

タブレットボタンは、パソコンの各種機能呼び出すためのボタンです。ボタンを押すだけでアプリケーションの起動やEメールの受信などが行えます。



	ボタン	機能
1	セキュリティボタン	2秒以上押し続けると、キーボードで【Ctrl】+【Alt】+【Del】キーを押したときの動作をします。
2	E-mail ボタン ^注	メールソフトが起動します。
3	ローテーションボタン	画面の縦横の表示を切り替えます。
4	Esc ボタン	キーボードで【Esc】キーを押したときと同じ動作をします。
5	Enter ボタン	キーボードで【Enter】キーを押したときと同じ動作をします。
6	Fn ボタン	このパソコン独自のボタンです。

注: あらかじめメールソフトの設定を行っておく必要があります。

「Fn」ボタンを押しながら他のボタンを押すと、次のような機能で使うことができます。

ボタン	機能
E-mail ボタン	ブラウザが起動します。
ローテーションボタン	Intel(R) 82830M Graphics Controllerのプロパティが起動します。
Esc ボタン	キーボードで【Windows】キーを押したときと同じ動作をします。
Enter ボタン	キーボードで【alt】キーを押したときと同じ動作をします。

 **POINT**

- ▶ 「Fn」 ボタンを押しながら、「Esc」 ボタンまたは「Enter」 ボタンを押したときに割り当てられている機能を変更できます。
 1. 「スタート」 ボタン→「コントロールパネル」の順にタップします。
「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
 2. 「プリンタとその他のハードウェア」をタップします。
「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウが表示されます。
 3. 「タブレットとペンの設定」をタップします。
「タブレットとペンの設定」ウィンドウが表示されます。
 4. 「タブレットボタン」タブをタップします。
「タブレットボタン」の一覧で、変更したいタブレットボタンの名前をタップします。
 5. 「変更」をタップしてタブレットボタンの設定を変更します。
- ▶ 変更したタブレットボタンの設定が有効になるのは、再起動した後です。
- ▶ すべてのタブレットボタンを変更できるわけではありません。
- ▶ コントロールパネルの「タブレットとペンの設定」ウィンドウは、通知領域にある「タブレットとペンの設定を変更します」をダブルタップしても表示できます。

Memo

第2章

セキュリティ

本パソコンで使用できるセキュリティ機能について紹介します。他人による不正使用や情報の漏えいなどを防ぐために、日ごろからセキュリティ対策を心がけてください。

1	セキュリティについて	26
2	ネットワーク接続時のセキュリティ	28
3	不正使用からのセキュリティ	30
4	パソコンの盗難防止	32
5	パソコン本体廃棄時のセキュリティ	33

1 セキュリティについて

パソコンの使用増加に伴って、コンピュータウイルスによるシステム破壊、情報の漏えい、不正使用、盗難などの危険も増えてきています。これらの危険から大切な情報を守るために、本パソコンではさまざまなセキュリティ機能が用意されています。ここでは、どんな危険があるか、またトラブルに備えてやっておくことについて、簡単に説明しています。

重要

- ▶ セキュリティ機能は完全な本人認識照合を保障するものではありません。当社ではセキュリティ機能を使用されたこと、または使用できなかったことによって生じるいかなる損害に関しても、一切の責任を負いかねます。
セキュリティは、本パソコンを使用している方が責任をもって行ってください。
- ▶ セキュリティは一度行えば安心できるものではありません。パソコンを使用している方が日ごろから関心をもって、最善のセキュリティ環境にしておくことが必要です。

■ コンピュータウイルス

パソコンにトラブルを引き起こすことを目的として作られたプログラムです。インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染することにより、パソコンのシステムやデータの破壊、情報の漏えいといった被害を受けます。

■ 情報の漏えい

ネットワークなどをおしてパソコンに不正に侵入され、重要なデータを流出されたり破壊されたりすることがあります。また、特殊なソフトウェアを使用することにより、廃棄したパソコンから不正に情報が抜き出されることがあります。

POINT

- ▶ フロッピーディスクやCD-R/RWディスク、MOディスクなどの外部記憶媒体を廃棄する場合も、セキュリティに気を付けてください。ディスクの読み取り部に傷をつけたり、データを完全に消去したりすることをお勧めします。

■ 不正使用

利用する権限のないパソコンを使用することです。パスワードを設定するなどの対策で防ぐこともできますが、容易に想像できるパスワードを使用したりすると、不正に使用される危険性が高くなります。

■ 盗難

不正にパソコンが持ち出され、保存しているデータが不正に使用されることがあります。

■ トラブルに備えて

パソコンのセキュリティには、これで完全というものはありません。日ごろからデータのバックアップをとったり、ソフトウェアを最新のものにアップデートしたりするなどの対策をしておけば、被害を少なくすることができます。

詳しくは、「トラブルシューティング」－「トラブルに備えて」をご覧ください。

2 ネットワーク接続時のセキュリティ

インターネットや電子メールなどのネットワークを利用して、情報を伝達することが多くなりました。そのため、コンピュータウイルスへの感染や、パソコン内の情報が漏えいする危険性も高まっています。

ここでは、ネットワークに接続しているパソコンを守るためのセキュリティ機能について紹介します。

コンピュータウイルス

コンピュータウイルスは、インターネットや電子メールなどを通じてパソコンに感染し、データを破壊したりパソコンを起動できなくしたりします。また、ウイルスに感染したパソコンを使用することによって、無意識のうちに他のパソコンにウイルスを広めてしまうこともあります。

本パソコンには、ウイルスを発見するためのソフトウェアとして「AntiVirus」が添付されています。AntiVirus は、ウイルス定義ファイルを使用して、ウイルスの侵入と感染をチェックすることができます。

詳しくは、「トラブルシューティング」－「コンピュータウイルス対策」をご覧ください。

通信データの暗号化

重要なデータをネットワーク経由でやり取りしている場合、ネットワーク上のデータから情報の漏えいを招くことがあります。そのため、データを暗号化して送信することが増えてきています。

Windows XP には、データを暗号化するための機能が標準で搭載されています。ここでは暗号化機能の1つとして、「IPSec (Internet Protocol Security)」を紹介します。

IPSec は、TCP/IP プロトコルで通信を行っている場合、アプリケーションに依存することなくデータを暗号化することができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

ワイヤレス LAN 使用時の通信データの暗号化

ワイヤレス LAN を使ってネットワークに接続すると、無線が届く範囲内にある他のワイヤレス LAN 搭載機器から通信内容を他人に読み取られてしまう危険性があるので、データを暗号化することが必要です。

本パソコンには、ワイヤレス LAN のデータを暗号化するための機能として「ネットワークキー」があります。

ネットワークキーについて詳しくは、『ワイヤレス LAN をお使いになる方へ (IEEE802.11b 準拠)』をご覧ください。

なお、ステーション経由でネットワークに接続している場合は、ステーションのマニュアルもご覧ください。

ファイアウォール

パソコンを外部のネットワークに接続している場合、外部のネットワークから不正にアクセスして情報を改ざんされることがあります。そのため、外部のネットワークと内部のネットワークの間にファイアウォールと呼ばれる壁を作って、外部からのアクセスをコントロールすることができます。

Windows XP では、インターネット接続ファイアウォール (ICF) が標準で搭載されています。インターネット接続ファイアウォール (ICF) については、Windows のヘルプをご覧ください。

3 不正使用からのセキュリティ

パソコンを使用する権限のない人が不正にパソコンを使用して、データを破壊したり漏えいしたりする危険からパソコンを守ることが必要になってきています。

ここでは、本パソコンで設定できるパスワードや機能などについて説明します。なお、複数のパスワードや機能を組み合わせることによって、パソコンの安全性も高まります。

重要

- ▶ パソコンの修理が必要な場合は、必ずパスワードなどを解除してください。セキュリティがかかった状態では、保証期間にかかわらず修理は有償となります。
- ▶ パスワードを何かに書き留める際は、安全な場所に保管してください。また、数字だけでなく英数字や記号を入れたり、定期的に変更するなど、他人に知られないように気を付けてください。

Windows のパスワード

OS の起動時やレジューム時、スクリーンセーバーからの復帰時のパスワードを設定できます。複数のユーザーで1台のパソコンを使用する場合、使用するユーザーによってパスワードを変更できます。

パスワードの設定方法については、Windows のヘルプをご覧ください。

管理者権限とユーザーアカウント

Windows XP では、管理者権限を持ったユーザーアカウントを作成できます。管理者は、他のユーザーアカウントのセットアップや管理などを行うことができます。管理者がパソコンを使用するユーザーを管理することで、パソコンの安全性も高まります。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

アクセス権と暗号化

Windows XP では、ファイルシステムとして「NTFS」を使用すると次のようなことができます。

- フォルダやファイルへのアクセス権の設定
ユーザーまたはグループごとに権限を設定できるため、権限のないユーザーからのアクセスに対してファイルを保護することができます。
- フォルダやファイルの暗号化
不慮の事故でハードディスクを紛失しても、簡単にファイルの内容を判別できないように保護することができます。

アクセス権を設定したり暗号化することにより、権限のないユーザーから大切なデータを守ることができます。

詳しくは、Windows のヘルプをご覧ください。

なお、ご購入時のファイルシステムの設定については、「機能」－「ドライブ関連」をご覧ください。

BIOS のパスワード

パソコンの起動時やレジューム時のパスワードを設定できます。BIOS のパスワードには、管理者用のパスワードとユーザー用のパスワードがあります。ユーザー用パスワードで作業を行う場合、パソコンの設定が変更できなくなるなどの制限が付きまます。

また、パソコンのハードディスク自体にパスワードを設定できます。ハードディスクにパスワードを設定しておくと、パスワードを知っている人以外はハードディスクに入っている情報が読み出せなくなります。

詳しくは、「BIOS」－「BIOS のパスワード機能を使う」(→ P.83) をご覧ください。

4 パソコンの盗難防止

パソコンの盗難という危険性があります。パソコンを鍵のかかる場所に設置または保管するなどの対策をとることもできますが、パソコン自体にも盗難防止用の機能が備えられています。本パソコンの盗難防止用ロックに盗難防止用ケーブルを取り付けることで、パソコン本体の盗難の危険性が減少します。盗難防止用ロックは、Kensington 社製のマイクロセーバーセキュリティシステムに対応しています。盗難防止用ケーブルは、次のものを購入してください。

- ・ 商品名 : SLIM MICROSAVER
- ・ 商品番号 : 0522011

(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ : 03-3342-5375)

盗難防止用ロックの場所については、「各部名称」－「パソコン本体左側面」(→ P.12)、「各部名称」－「ドッキングステーション」(→ P.17)をご覧ください。

5 パソコン本体廃棄時のセキュリティ

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ゴミ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ゴミ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・添付の「リカバリ CD-ROM」を使って、ご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSからデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡等を行う際に、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁氣的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、アプリケーションなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

本パソコンには、パソコンの廃棄・譲渡時のデータ流出というトラブルを回避する安全策の一つとして、専用ソフトウェア「ハードディスクデータ消去」が添付されています。「ハードディスクデータ消去」は、WindowsなどのOSによるファイル削除や初期化と違い、ハードディスクの全領域について、元あったデータに固定パターンを上書きするため、データが復元されにくくなります。

ただし、「ハードディスクデータ消去」で消去した場合でも、特殊な設備や特殊なソフトウェアの使用によりデータを復元される可能性はゼロではありませんので、あらかじめご了承ください。

「ハードディスクデータ消去」の使い方については、「ソフトウェア」－「ソフトウェア一覧」をご覧ください。

ハードディスクのデータ消去サービスについて

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ完全消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	ランダムデータ2回書（標準）から海外規格（NSA,DoD・・・）に対応
ハード消去	消磁装置による磁気破壊（媒体表面水平磁力 5000 ガウス）

詳しくは、ストレージ統合サービス（<http://storage-system.fujitsu.com/jp/service/>）をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込み先 メールアドレス：erase@support.fujitsu.com

3

第3章

ハードウェア

本パソコンを使用するうえでの基本操作や、本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）周辺機器の基本的な取り扱い方について説明しています。

1	周辺機器を取り付ける前に	36
2	ポインティングデバイスについて	37
3	キーボードについて	40
4	バッテリーについて	46
5	CDについて	52
6	ドッキングステーションについて	56
7	メモリについて	59
8	PCカードについて	62
9	外部ディスプレイについて	65
10	ハードウェアのお手入れ	67

1 周辺機器を取り付ける前に

取り扱い上の注意

ここでは周辺機器を接続する前に、予備知識として知っておいていただきたいことを説明します。

- **周辺機器によっては設定作業が必要です**

パソコンの周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。たとえば、プリンタやPCカードを使うには、取り付け後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。また、メモリなどのように、設定作業がいらぬ機器もあります。周辺機器は、本書をよくご覧になり、正しく接続してください。

- **マニュアルをご覧ください**

ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

本書で説明している周辺機器の取り付け方法は一例です。本書とあわせて周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

- **純正品をお使いください**

弊社純正のオプション機器については、「システム構成図」をご覧ください。

他社製品につきましては、本パソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

- **ACPIに対応した周辺機器をお使いください**

本パソコンはACPIモードに設定されています。ACPIモードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

また、本パソコンでは、低レベルのスタンバイ（ACPI S1）をサポートしていません。

お使いになる周辺機器が低レベルのスタンバイのみサポートしている場合、本パソコンをスタンバイや休止状態にしないでください。

- **周辺機器の電源は、本パソコンの電源を入れる前に入れてください**

電源を入れて使う周辺機器を取り付けた場合は、周辺機器の電源を入れてから本パソコンの電源を入れてください。また、周辺機器の電源を切るときは、本パソコンの電源を切ってから周辺機器の電源を切ってください。

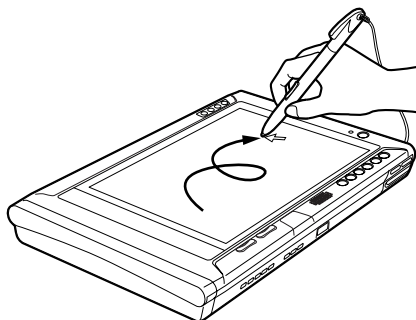
重要

- ▶ コネクタに周辺機器を取り付ける場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
- ▶ 複数の周辺機器を取り付ける場合は、1つずつ取り付けて設定をしてください。

2 ポインティングデバイスについて

タッチパネルについて

本パソコンは電磁誘導式です。ペンで画面を触れず近づけるだけで、マウスポインタを操作することができます。画面上を直接操作できるので、直感的でスピーディな操作が可能です。



画面上でペンを移動させると、マウスポインタが移動します。

POINT

- ▶ ペンの先を画面に押しつける力が不十分な場合、正しく操作が認識されないことがあります。添付のペンを用いて、確実に画面を押して操作をしてください。
- ▶ タッチパネルは、添付のペンで操作してください。指先やボールペンなどで操作すると、パネルが汚れたり、傷がついたりします。
- ▶ ペンの紛失を防ぐために、添付のペンひもをお使いください。ペンひもで、ペンとパソコン本体のペンひも取り付け用穴を結び付けます。
- ▶ ペンを破損したり紛失したときは予備のペンをご購入ください。

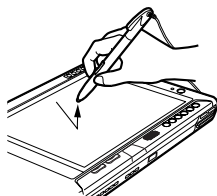
商品名：STYLISTIC スタイルスペン

商品番号：0635092

(富士通コワーコ株式会社 お問い合わせ：03-3342-5375)

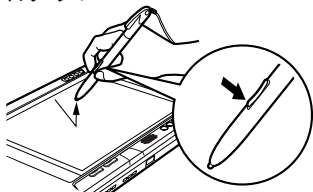
■ タッチパネルの使い方

● タップ



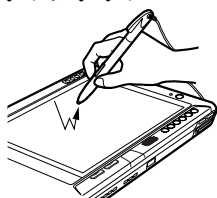
ペンで画面を1回押します。
マウスの左クリックと同様の操作です。

● 右タップ



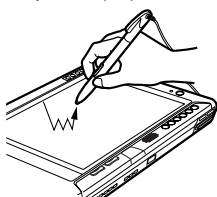
ペンのモードボタンの下側を押しながら画面をタップします。また、ペンで画面を長押し（約2秒）しても、右タップになります。
マウスの右クリックと同様の操作です。

● ダブルタップ



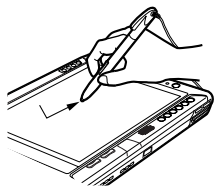
ペンで画面を素早く2回連続して押します。
マウスのダブルクリックと同様の操作です。

● トリプルタップ



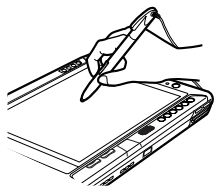
ペンで画面を素早く3回連続して押します。

● ドラッグ



画面に軽く押し付けながらなぞります。

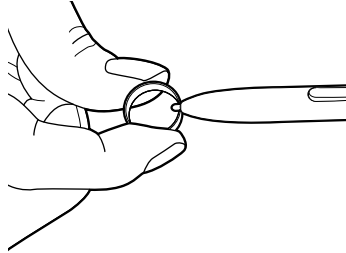
● ポイント



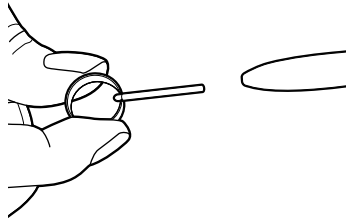
ペン先を画面に近づけたり、軽く触れます。

ペン先の交換方法

- 1** ペン先をペン本体から引き抜きます。
添付のクリップでペン先をはさみます。



- 2** ペン先がペン本体から外れるまで、まっすぐ引き抜きます。



- 3** 新しいペン先をペン本体に差し込みます。
ペン先の向きを確かめて、ペン本体の穴にまっすぐ差し込みます。

3 キーボードについて

ワイヤレスキーボードについて

👉 重要

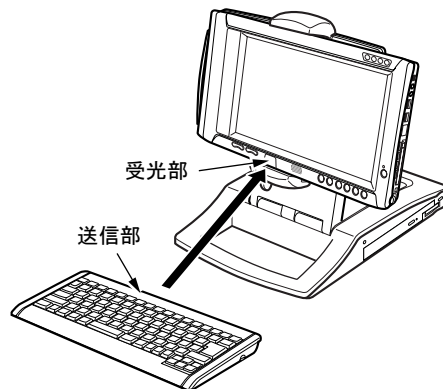
- ▶ お使いの機種にはワイヤレスキーボードは添付されていません。

お使いになる場合は、別売のワイヤレスキーボードをご購入ください。

ワイヤレスキーボードは、キーボードの操作を赤外線でパソコン本体に送信しています。ワイヤレスキーボードを使用する場合は、パソコン本体をドッキングステーション（→ P.56）に取り付けて固定し、キーボードの送信部をパソコン本体のワイヤレスキーボード受光部（→ P.11）に向けて操作してください。距離は10～30cmの範囲での使用をお勧めします。

👉 重要

- ▶ ワイヤレスキーボードを使用する場合は、別売のドッキングステーションにパソコン本体をしっかりと固定してください。不安定なまま使用すると、パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。



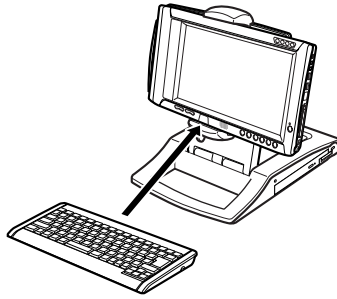
🔍 POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードを、パソコン本体の赤外線通信ポートに向けて操作しないでください。特に赤外線通信中は、ワイヤレスキーボードを使用しないでください。赤外線通信ポートが正常に動作しなくなります。
- ▶ 以下の場合、うまく通信できないことがあります。
 - ・ ワイヤレスキーボードの送信部とパソコン本体が、真正面に向き合っていない場合
 - ・ ワイヤレスキーボードの送信部とパソコン本体の距離が離れすぎたり、間に遮断物がある場合
 - ・ テレビなどのリモコンや、ワイヤレス・ヘッドホンなどが近くで動作している場合
 - ・ 直射日光や、蛍光灯・白熱灯などの強い光がワイヤレスキーボードの送信部やパソコン本体の受光部に当たっている場合
 - ・ ワイヤレスキーボードの送信部やパソコン本体の受光部が汚れている場合
- ▶ ワイヤレスキーボードのボタンが押されたままになると、電池が短時間で消耗します。ワイヤレスキーボードの上に物を載せたり、ひっくり返して放置しないでください。

■ ID の設定について

複数のワイヤレスキーボードを隣接して使用する場合は、混信を防ぐため、各ワイヤレスキーボードに異なる ID を設定します。ID は、キーボードの【Fn】+左側の【Alt】+左側の【Shift】+【0】～【7】キーを押して設定します。

- 1 【Fn】+左側の【Alt】+左側の【Shift】+【0】～【7】キーで任意の ID をキーボードに設定します。
- 2 ワイヤレスキーボードをパソコン本体に向けてキーを 2 回押し、パソコン本体に ID を認識させます。



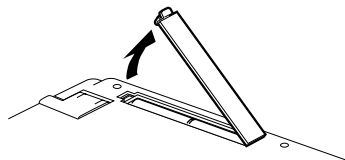
POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードの工場出荷時の ID は“0”に設定されています。
- ▶ 次の場合はパソコン本体に設定した ID は解除されます。
 - ・ パソコン本体の電源を切ったとき
 - ・ パソコン本体をスタンバイまたは休止状態にさせたとき
- ▶ 電源を入れた直後、またはレジューム直後のパソコン本体は、どのIDのワイヤレスキーボードからでもキー入力が可能であり、初めて受信したキーボードの ID がパソコン本体の ID となります。
- ▶ 動作状態のパソコン本体の ID 設定（変更）は、パソコン本体とワイヤレスキーボードの ID が一致していないと行えません。
- ▶ ワイヤレスキーボードのキー入力が正常に行えなくなった場合は、いったん電池を取り出し、数回キーを押したあと、再度電池を入れてください。それでも正常に入力できない場合は、電池の寿命と考えられます。新しい電池と交換してください。

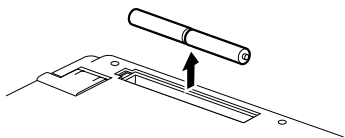
■ 電池交換について

ここでは、ワイヤレスキーボードの電池交換について説明します。ワイヤレスキーボードの電池は、単4電池を2本使用します。

1 電池カバーを取り外します。

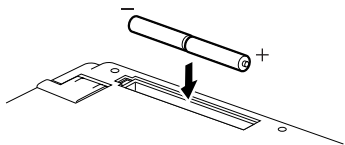


2 電池を取り出します。

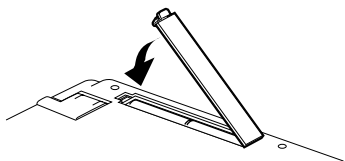


3 新しい電池を取り付けます。

電池のプラス (+) とマイナス (-) の向きを確認して正しく入れてください。



4 電池カバーを取り付けます。



⚠ 注意



- プラス (+) とマイナス (-) の向きを確認して、正しく入れてください。
- 消耗した電池と新しい電池を混ぜたり、種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。
- ワイヤレスキーボードを長期間使用しない場合は、電池の液漏れなどによるトラブルを防ぐため、電池を取り出してください。万一液漏れしたときは、水に浸した布を固く絞って金具、周囲を清掃し、その後、乾いた布で水分をよく拭き取ってください。
- 電池から漏れた液が体についたときは水でよく洗い流してください。また目や口に入ったときは、よく洗い流した後、直ちに医師の診察を受けてください。
- 電池ボックスの端子をショートさせないでください。
- 電池を水や火の中に入れて、分解しないでください。
- 電池を充電しないでください。
- 電池に直接ハンダ付けしないでください。
- 極端な温度条件下で保管しないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 電池を廃棄するときは、各自治体の指示に従ってください。

重要

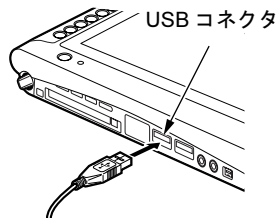
- ▶ ワイヤレスキーボードは、電池交換を行うと設定していた ID (→ P.41) が初期値 (0) に戻ります。電池交換後に任意の ID を再設定してください。

USB キーボードの接続について

重要

- ▶ お使いの機種には USB キーボードは添付されていません。
お使いになる場合は、別売の USB キーボードをご購入ください。

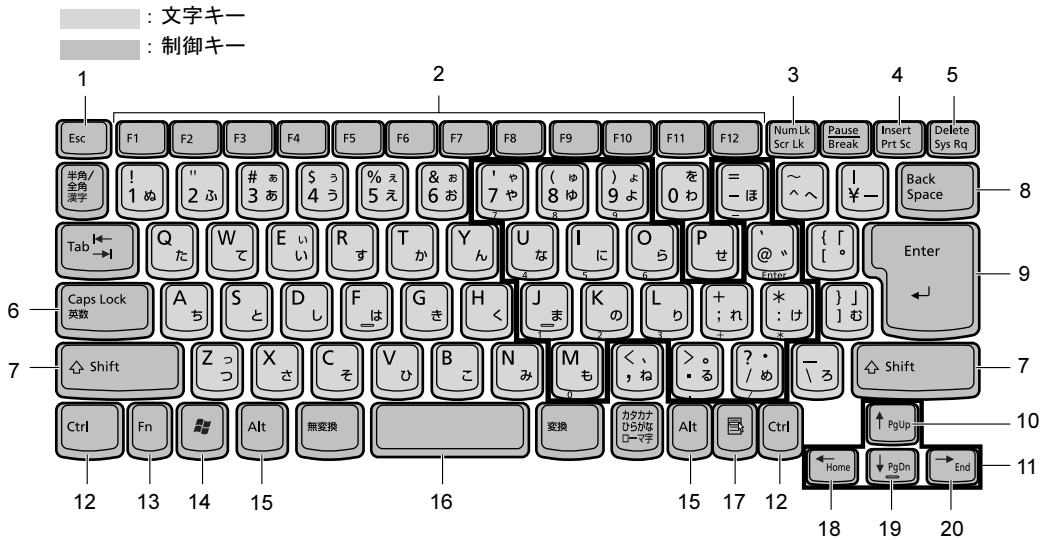
USB キーボードのコネクタを、パソコン本体上側面の USB コネクタに接続します。このとき、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。

**POINT**

- ▶ ドッキングステーションに接続する場合
USB キーボードのコネクタをドッキングステーションの左側面の USB コネクタに、接続します。このとき、コネクタの向きを確かめて、まっすぐ接続してください。
- ▶ 本パソコンは、別売の USB マウス (FMV-MO203S)、FDD ユニット (USB) (FMV-NFD52S) を使用することもできます。USB 機器の使用については以下の点に留意してください。
 - ・ パソコン本体の電源が入った状態で取り付け/取り外しを行えます。
 - ・ 取り付け時はコネクタをまっすぐ接続してください。

OADG キーボード

キーは大きく分けると、2種類に分かれます。



■ 主なキーの名称と働き

1 【Esc】キー

現在の作業を取り消して、1つ前に行った作業に戻るときなどに使います。

2 【F1】～【F12】キー

アプリケーションごとに使い方が決められます。

3 【Num Lk】キー

テンキーモードにするときに押します。

4 【Prt Sc】キー／【Insert】キー

【Prt Sc】キー 画面のハードコピーを取るときに【Fn】キーと一緒に押します。

【Insert】キー 文字を入力するときに、「挿入モード」と「上書きモード」を切り替えます。

5 【Delete】キー

文字を削除するときに押します。

また、【Ctrl】キーと【Alt】キーと一緒に押すと、本パソコンをリセットできます。

6 【Caps Lock】キー



アルファベットを入力するときに使用します。【Shift】キーと一緒に押して、大文字／小文字を切り替えます。

7 【Shift】キー

他のキーと組み合わせて使います。

8 【Back Space】キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

- 9 【Enter】キー**
入力した文字を確定するときなどに使います。
リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。
- 10 【Pg Up】キー**
前の画面に切り替えるときに【Fn】キーと一緒に押します。
- 11 【↑】【↓】【←】【→】キー**
カーソルを移動するときに使います。
- 12 【Ctrl】キー**
他のキーと組み合わせて使います。
- 13 【Fn】キー**
本パソコン独自のキーです。
- 14 【】(Windows) キー**
「スタート」メニューを表示するときに押します。
- 15 【Alt】キー**
他のキーと組み合わせて使います。
- 16 【Space】キー**
1文字分の空白を入力するのに使います(キーボード手前中央にある、何も書かれていない横長のキーです)。
- 17 【】(アプリケーション) キー**
選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。また、ペンの右タップと同じ役割をします。
- 18 【Home】キー**
カーソルを行の最初に移動するときに【Fn】キーと一緒に押します。
また、【Ctrl】キーも一緒に押すと、文章の最初に移動します。
- 19 【Pg Dn】キー**
次の画面に切り替えるときに【Fn】キーと一緒に押します。
- 20 【End】キー**
カーソルを行の最後に移動するときに【Fn】キーと一緒に押します。
また、【Ctrl】キーも一緒に押すと、文章の最後に移動します。

POINT

- ▶ ワイヤレスキーボードで Caps Lock、Scroll Lock、Num Lock を切り替える場合は、必ずパソコン本体に向けて操作を行い、使用後は元の状態に戻してください。

■ テンキーモードについて

文字キーの一部を通常の状態と切り替えて、テンキー(数値入力を容易にするキー配列)として使えるようにするモードを「テンキーモード」といいます。テンキーモードの切り替えは、【Num Lk】キーで行い、上図の太線で囲まれたキーがテンキーとなります。これらのキーで入力できる文字は、各キーの前面に刻印されています。

4 バッテリーについて

バッテリーを充電する

1 ACアダプタを接続します。

ACアダプタを接続すると充電が始まり、状態表示LEDにバッテリー充電表示ランプが表示されます。

2 バッテリー充電表示ランプがグリーン点灯に変わったことを確認し、ACアダプタを取り外します。

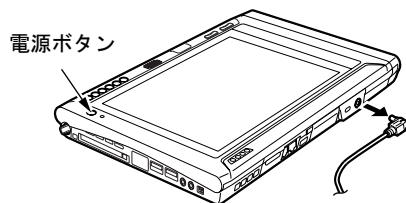
POINT

- ▶ 充電時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→P.94)をご覧ください。
- ▶ 本パソコンご購入時、または1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリーを充電してからお使いください。
- ▶ バッテリーの充電は、バッテリー充電表示ランプがグリーン点灯するまで十分に時間をかけて行い、満充電状態にしてください。
- ▶ バッテリー残量が90%以上残っている場合は、ACアダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。
- ▶ 周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリーの充電能力は低下します。
- ▶ バッテリー運用直後の充電などでは、バッテリーの温度が上昇しているため、バッテリーの保護機能が働いて充電が行われない場合があります(バッテリー充電表示ランプがオレンジ点滅します)。しばらくして、バッテリーの温度が低下すると充電が開始されます。

バッテリーを運用する

ここでは、本パソコンをバッテリーで運用する場合について説明します。

1 ACアダプタを取り外し、電源ボタンを押します。



POINT

- ▶ 周囲の温度が低いと、バッテリー稼働時間は短くなります。
- ▶ バッテリー稼働時間については、「技術情報」－「仕様一覧」(→P.94)をご覧ください。
- ▶ バッテリーを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリー稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリーに交換してください。
- ▶ バッテリーの温度が上昇すると、パソコンの動作が遅くなる場合があります。その場合は、ACアダプタを接続してください。

バッテリー残量を確認する

バッテリーの残量は、電源が入っているときや充電中に、状態表示 LED のバッテリー残量表示ランプで確認できます。

■ バッテリーの残量表示

グリーン点灯／点滅 約 100%～約 51%のバッテリーレベルを示します。



オレンジ点灯／点滅 約 50%～約 13%のバッテリー残量を示します。



レッド点灯／点滅 LOW バッテリー状態（約 12%以下のバッテリーレベル）、または DEAD バッテリー状態（0%のバッテリーレベル）を示します。LOW バッテリー状態では、スピーカーが ON の場合は警告音が鳴ります。

POINT

- ▶ バッテリー残量表示は、バッテリー（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリーの充放電回数など）により、実際のバッテリー残量とは異なる表示をする場合があります。
- ▶ バッテリー残量が 90%以上残っている場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。89%以下で充電されます。

■ バッテリー温度アラーム（バッテリー充電表示ランプ）

充電表示ランプのオレンジ点滅は、内蔵バッテリーパックが熱を持って温度が高くなったり、冷やされて温度が低くなったときに、バッテリーの保護機能が働いて充電を停止していることを表しています。しばらくして内蔵バッテリーパックの温度が平常に戻ると、オレンジ点灯になり充電を再開します。

■ バッテリーの異常表示（バッテリー残量表示ランプ）

バッテリー残量表示ランプのレッド点滅は、バッテリーが正しく充電できないことを示します。

POINT

- ▶ バッテリー残量表示ランプがレッド点滅している場合は、パソコン本体の電源を切ってからバッテリーの取り付けをやり直してください。それでもレッド点滅している場合はバッテリーが異常です。新しいバッテリーと交換してください。
「ハードウェア」－「バッテリーパックを交換する」（→ P.50）

■ LOW バッテリー状態の表示

バッテリーが LOW バッテリー状態になると、状態表示 LED のバッテリー残量表示ランプがレッド点灯／点滅します。すみやかに AC アダプタを接続して、バッテリーを充電してください。

POINT

- ▶ Windows の省電力機能で警告音が鳴るように設定できます（→「機能」－「省電力」）。ただし、「ボリュームコントロール」ウィンドウで「ミュート」にチェックをしていると、警告音が聞こえません。「ボリュームコントロール」ウィンドウでスピーカーの音量設定してください（→「機能」－「音量の設定」）。
- ▶ OS の起動前（BIOS セットアップなど）では、警告音が鳴るように設定できません。

■ LOW バッテリー状態の対処

1 バッテリーを充電するか、バッテリーを交換します。

AC アダプタを接続して、バッテリーを充電してください。また、携帯時など、AC アダプタを接続できない場合は、作業を終了させて電源を切ってください。その後、バッテリーパックを交換してください（→ P.50）。

POINT

- ▶ LOW バッテリー状態のまま使用し続けると、作成中または保存中のデータが失われることがあります。すみやかに AC アダプタを接続してください。また、AC アダプタがない場合は、作成中のデータを保存し、動作中のアプリケーションを終了後、本パソコンの電源を切ってください。
- ▶ 本パソコンではバッテリー残量が約1%になったら、自動的にスタンバイするように設定されています。ただし、ハードディスクなどへデータの読み書きを行っている場合は、その処理が終了するまでスタンバイしません。設定を変更する場合は、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」の「電源レベルが次に達したらバッテリー切れアラームで知らせる」でチェックを外してください。ただし、これらの設定を変更すると、バッテリーが切れた時点で電源が切断されます。そのため、保存中や作成中のデータが失われたり、パソコン本体の動作が不安定になることがあります。
- ▶ バッテリー切れによる作成中のデータの消失を防ぐために、パソコンをスタンバイ中にバッテリー残量が約 1%になったら、自動的にパソコンを起動して休止状態にすることができます。設定方法は、「BIOS セットアップ」の「省電力」メニューで、「自動 Save To Disk」を「オン」にします（→ P.81）。なお、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウの「アラーム」タブの「バッテリー切れアラーム」でアラームの動作が休止状態に設定されていない場合、スタンバイと起動を繰り返す、または起動するだけで、休止状態にはなりませんのでご注意ください（→「機能」－「省電力」）。

取り扱い上の注意

警告



- **バッテリーは、大変デリケートな製品です。取り付け／取り外しを行う場合は、落下させるなどして、強い衝撃を与えないでください。また、安全を考慮し、強い衝撃を与えたバッテリーは、使用しないでください。感電や破裂の原因となります。**

- **分解しないでください。**
バッテリーを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。
- **放電について**
 - ・バッテリーは、充電後にお使いにならなくても、少しずつ自然放電していくので、使う直前に充電することをお勧めします。
 - ・長期間（約1ヶ月以上）本パソコンをお使いにならない場合は、バッテリーを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリーの寿命が短くなります。
- **寿命について**
 - ・パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリーは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリーで運用し、バッテリーの状態を確認してください。
 - ・高温環境に放置した場合、バッテリーの消耗、劣化が進みます。
 - ・バッテリーは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は新しいバッテリーと交換してください。
 - ・バッテリーの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリーの寿命です。
 - ・寿命になったバッテリーは、パソコン本体から取り外してください。取り付けのまま放置すると、感電や火災の原因となります。
- **廃棄について**
バッテリーを廃棄する場合は、ショート（短絡）防止のために、バッテリーパックのコネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。
- **バッテリー稼働時間について**
 - ・バッテリー稼働時間を長くするには、省電力機能を利用します（→「機能」－「省電力」）。
 - ・バッテリー稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリー稼働時間が短くなる場合があります。
- **次のような場合はACアダプタを使用してください**
 - ・ハードディスクやCDなどを頻繁に使用するとき
 - ・LANやモデムを頻繁に使用するとき
 - ・本パソコンをご購入時の状態に戻すとき
 - ・PCカードやUSB機器を2つ以上同時に取り付ける場合
- **次のような場合は、バッテリー残量に注意してください**
 - ・ワイヤレスLANなどのワイヤレス機器を使用するとき

バッテリーパックを交換する

内蔵バッテリーパックの交換は、プログラムやデータをハードディスクなどに保存してから行います。ここでは、内蔵バッテリーパックの交換について説明します。

警告



- 内蔵バッテリーパックの交換を行う場合は、ACアダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリーパックのコネクタに触れないでください。感電や故障の原因となります。

POINT

- ▶ 新しい内蔵バッテリーパックは、次の製品をお買い求めください。

品名：内蔵バッテリーパック

型名：FMVTBBP101

品名：バッテリーパック (L)

型名：FMVTBBP102

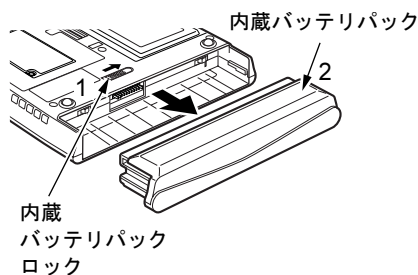
(ご購入元にお問い合わせください)

1 パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します (→『取扱説明書』)。

2 パソコン本体を裏返します。

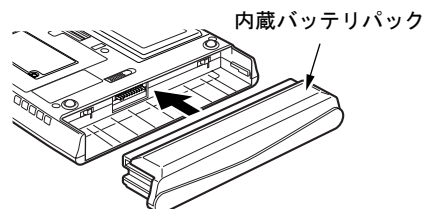
3 内蔵バッテリーパックを取り外します。

内蔵バッテリーパックロックをスライドさせ (1)、内蔵バッテリーパックを取り外します (2)。



4 新しい内蔵バッテリーパックを取り付けます。

内蔵バッテリーパックをパソコン本体と水平に差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。バッテリーパックロックは自動的にロックされます。



重要

- ▶ 取り外したバッテリーパックは、ショート（短絡）防止のため、コネクタに絶縁テープを貼るなどの処置をしてください。なお、取り外したバッテリーパックは乾電池などの電池と混ぜないようにしてください。また、リチウムイオン電池、ニッケル水素電池のバッテリーパックは、貴重な資源です。廃棄する場合は、リサイクルにご協力をお願いします。

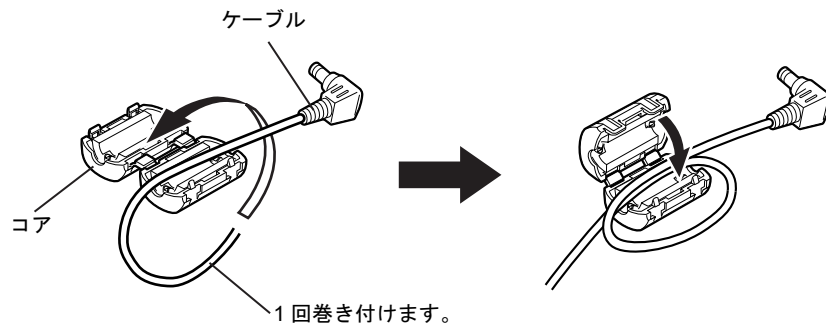
POINT

- ▶ 本パソコンは、バッテリー運用時でもパソコン本体がスタンバイ状態か休止状態であれば、内蔵バッテリーパックの交換が行えます。その際は次の点に注意し、充電済みの内蔵バッテリーパックと交換してください。
 - ・スタンバイする前にデータを保存してください。
 - ・内蔵バッテリーパックは、3分以内に交換してください。
 - ・内蔵バッテリーパックの交換中に電源ボタンを押さないでください。
 - ・内蔵バッテリーパックの交換後、パソコン本体をレジュームさせる場合は、内蔵バッテリーパックがロックされていることを確認してください。
 - ・内蔵バッテリーパックの交換後、バッテリー残量のチェックが終了するまで電源は入れられません。10秒程度待ってから電源を入れてください。
- なお、ご購入時および長時間本パソコンをご使用にならなかった場合は、内蔵バッテリーパックを交換する前に、ACアダプタでの通電を半日以上行ってください。また、パソコン本体のバッテリーパック接続端子には触れないでください。

コアの取り付け

本パソコンのLANを使用する場合は、不要電波の輻射を軽減させるために、ACアダプタのケーブルに添付のコアを取り付けてください。

- 1 ケーブルのコネクタのすぐ後ろでコアにケーブルを1回巻きつけ、コアを閉じます。



5 CD について

ここでは、CD の取り扱い方について説明します。別売のドッキングステーションで CD 以外をお使いの場合は、『DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、CD-R/RW ドライブをお使いになる方へ』もあわせてご覧ください。

重要

- ▶ ここでは、CD-ROM、音楽 CD および CD-R/RW ディスクをまとめて CD、またはディスクと呼んでいます。

取り扱い上の注意

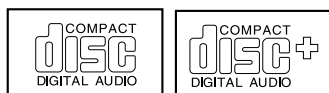
故障を防ぐため、CD をお使いになる場合は、次の点に注意してください。

■ CD 媒体の注意事項

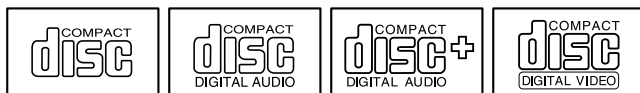
- ディスクは両面ともラベルを貼ったり、ボールペンや鉛筆などで字を書いたりしないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりしたときは、少し湿らせた布で中央から外側にむかって拭いた後、乾いた布で拭き取ってください。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

■ ドライブの注意事項

- 円形以外（星型やカード型などの変形）の CD はお使いにならないでください。正常に読み出しや書き込みが行えなかったり、故障の原因となる場合があります。
- コピーコントロール CD については、現状の音楽 CD の規格に準拠していない特殊なディスクのため、本パソコンでの再生および動作保証はできません。コピーコントロール CD のご使用中に不具合が生じた場合は、各コピーコントロール CD の発売元にお問い合わせください。なお、正式な音楽 CD 規格に準拠した CD には、次のようなロゴが表示されています。



- 別売のドッキングステーションでは、次図のマークがついた CD をお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。また、マークの種類によっては、アプリケーションが必要になる場合があります。



- 別売のドッキングステーションでは、上図のマーク以外の CD をお使いになれる場合があります。『DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ、CD-R/RW ドライブをお使いになる方へ』もあわせてご覧ください。

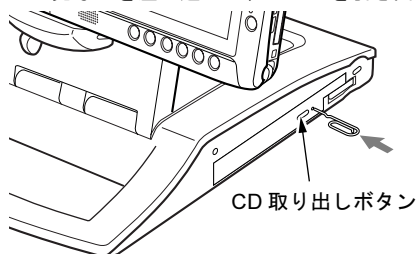
CD をセットする／取り出す

重要

- ▶ CD に頻繁にアクセスする場合などは、AC アダプタを使用してください。
- ▶ CD をセットする場合は、トレー中央の突起にCDの穴を合わせ、パチンと音がするようしっかりとはめ込んでください。きちんとはめ込まないと、CD がドライブ内部で外れて、トレーやドライブ内部、および CD を破損する原因となることがあります。
- ▶ セットすると自動で始まるディスクを使用しているときにパソコン本体をスタンバイさせると、レジューム時にディスクが二重に起動してしまい、誤動作の原因となります。二重に起動してしまった場合は、ディスクのアプリケーションを一度すべて終了し、ディスクをセットし直してください。
- ▶ CD はデータの読み出しなどの際、高速で回転するため、使用時に振動や風切音がすることがあります。

POINT

- ▶ 別売のドッキングステーションの CD ドライブは、電子ロックのため、パソコン本体が動作状態の場合のみ CD のセット／取り出しが可能です。
- ▶ シールを貼った CD など、重心の偏った媒体を使用すると、ユニットに振動が発生し、十分な性能が出ない場合があります。
- ▶ トレーを最後まで押し込めない場合は、カシャットという音がするまでトレーを引き出し、再度押し込んでください。
- ▶ パソコン本体の電源が切れた状態では、トレーが閉まらないことがあります。この場合は、再度電源を入れて、トレーを閉めてください。
- ▶ 何らかの原因で、CD 取り出しボタンを押してもトレーが出ない場合は、「マイコンピュータ」アイコンをダブルタップし、「マイコンピュータ」ウィンドウの「CD アイコン」を右タップして「取り出し」をタップしてください。
それでも出ない場合は、CD ドライブユニット前面の CD 取り出しボタンの横の穴にクリップの先などを差し込んで、トレーを引き出してください。

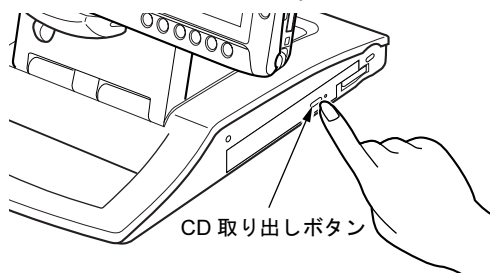


■ セットする

1 ドッキングステーションにパソコン本体を取り付けます (→ P.56)。

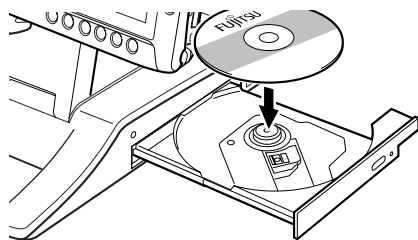
2 CD 取り出しボタンを押します。

トレイが少し飛び出します。



3 トレーを引き出し、CD をセットします。

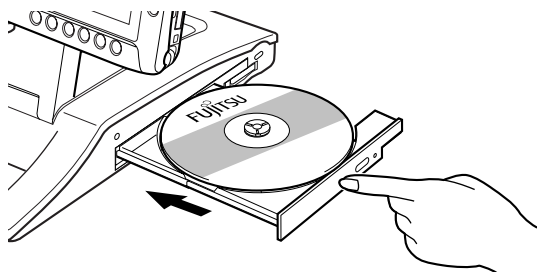
トレイを手で支えながら、CD のレーベル面を上にして、トレイ中央の突起にパチンと音がするようはめ込みます。



POINT

- ▶ ディスクをセットするときは、ディスクがドッキングステーションにぶつからないように、トレイ中央の突起にディスクの穴をはめ込んでください。

4 トレーを静かに押し込みます。



 **POINT**

- ▶ ディスクをセットした後、「この種類のファイルのディスクを挿入したり…」という画面が表示された場合は、「何もしない」をタップし、「OK」をタップしてください。
- ▶ マルチセッションディスクをお使いのときは、通常のディスクをお使いになるときと比べ、セットしてから使用可能となるまで、多少時間がかかることがあります。

■ 取り出す

- 1** CD を利用しているアプリケーションを終了し、CD 取り出しボタンを押します。
トレイが少し飛び出します。
- 2** トレーを手で支えながら CD を取り出します。
トレイ中央の突起を押さえながら、CD のふちを持ち上げてください。
- 3** トレーを静かに押し込みます。

6 ドッキングステーションについて

ドッキングステーションを取り付ける

重要

- ▶ お使いの機種にはドッキングステーションは添付されておりません。
お使いになる場合は、別売のドッキングステーションをご購入ください。

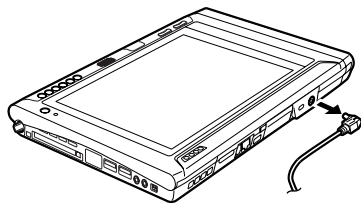
注意



- パソコン本体にドッキングステーションを取り付ける場合は、指をはさまないように注意してください。
けがの原因となることがあります。

1 パソコン本体から AC アダプタを取り外します。

LAN ケーブルやディスプレイケーブルを接続している場合は、取り外してください。



2 ドッキングステーションを固定します。

角度調節バーの角度調節バー固定/解除ボタンを押して、ドッキングステーションを固定します。

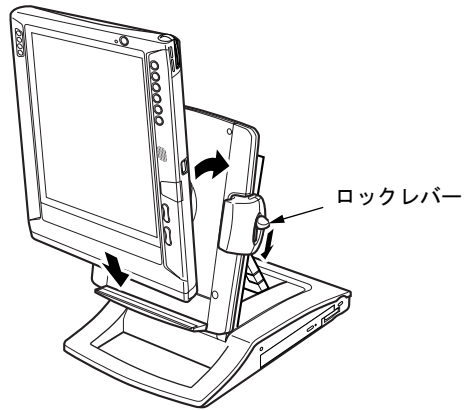


重要

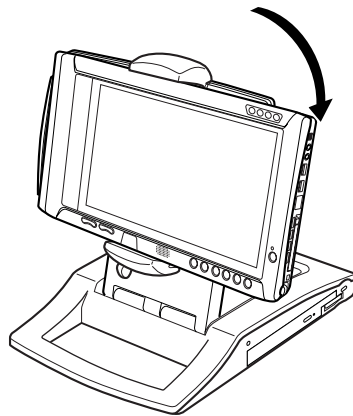
- ▶ ドッキングステーションにパソコン本体を取り付ける場合は、角度調節バーでドッキングステーションをしっかり固定してください。パソコン本体が倒れて故障の原因となります。

3 パソコン本体を取り付けます。

パソコン本体を取り付け、ロックレバーを下にスライドしてロックします。

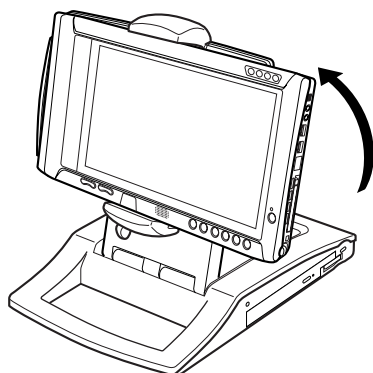
**4** ACアダプタを接続します。**重要**

- ▶ ドッキングステーションにパソコン本体を取り付けて使う場合は、必ずACアダプタを接続してください。バッテリーではお使いになれません。

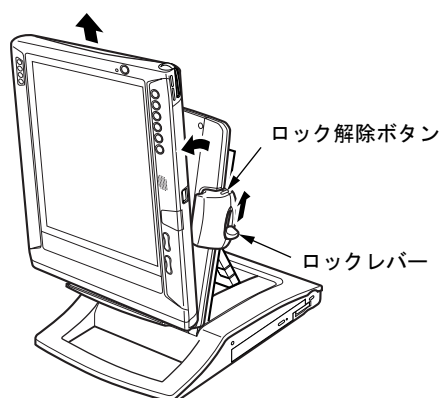
5 画面の向きを横にするには、パソコン本体部分を横向きにします。

ドッキングステーションを取り外す

- 1 画面の向きが横になっているときは、パソコン本体を縦向きにします。



- 2 ロック解除ボタンを押しながらロックレバーを上スライドし、ロックを解除して、パソコン本体を取り外します。



POINT

- ▶ パソコン本体の電源が入っているときでも、取り付け、取り外しができます。通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「内蔵 DVD/CD ドライブ」や「USB オプション」を「停止」にしてから取り外してください。

7 メモリについて

メモリを交換する

ここでは、本パソコンに搭載されているメモリの交換について説明します。

警告



- メモリを交換する場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。
- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が悪く飲んで窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かない所に置くように注意してください。万一、飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

注意



- メモリの交換を行うときは、端子や IC などに触れないようメモリのふちを持ってください。また、パソコン本体内部の部品や端子などにも触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。
- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切ってください。スタンバイや休止状態で行うと、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

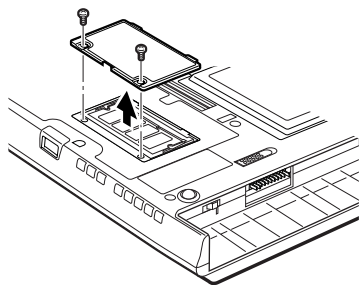
重要

- ▶ 本パソコンのネジを取り外すときは、ネジのサイズ (M2.5) に合ったプラスのドライバー 1 番をお使いください。他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあります。
- ▶ 取り付けるメモリは、本パソコンでサポートしているメモリをご使用ください。FMVNM25SF (256MB)、FMVNM51S (512MB) がお使いになれます。

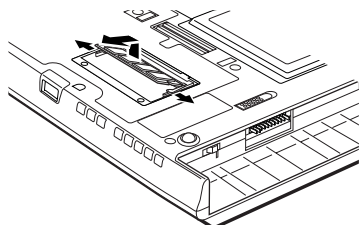
POINT

- ▶ メモリを取り付け、メモリの容量を確認するには、BIOS セットアップの「情報」メニューの「メモリスロット」の項目を見ます (→ P.82)。「256MB SDRAM」などと取り付けたメモリの容量が表示されます。取り付けが正しいにもかかわらず本パソコンが起動しない場合は、メモリが故障または不良です。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」またはご購入元にご連絡ください。
- ▶ パソコン本体の電源を入れる前に必ずメモリを取り付けておいてください。
- ▶ 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- ▶ 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。

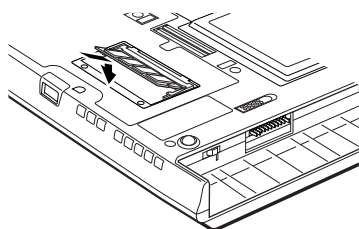
- 1** パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外します（→『取扱説明書』）。
- 2** 内蔵バッテリーパックを取り外します。
「バッテリーパックを交換する」の手順1～3（→P.50）。
- 3** ネジ(2ヶ所)を取り外し、拡張RAMモジュールスロットカバーを取り外します。



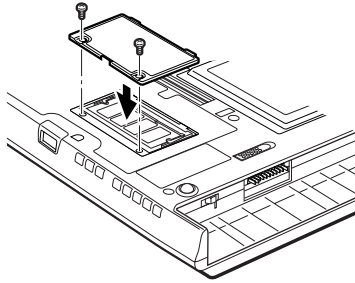
- 4** メモリを取り外します。
メモリを押さえている両側のツメを左右に開き、スロットから取り外します。



- 5** 新しいメモリを取り付けます。
メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかり差し込み、パチンと音がするまで下に倒します。



- 6** 拡張 RAM モジュールスロットカバーを取り付け、ネジで固定します。
手順3で外したカバーを取り付けます。



- 7** 内蔵バッテリーパックを取り付けます。
「バッテリーパックを交換する」の手順4 (→ P.50)。

重要

- ▶ メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されないことがあります。その場合は電源を切り、メモリを取り付け直してください。

8 PCカードについて

取り扱い上の注意

⚠ 注意



- PCカードは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体に留った静電気により破壊される場合があります。PCカードを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。

故障を防ぐため、PCカードをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- 温度の高い場所や直射日光のあたる場所には置かないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 重い物を載せないでください。
- コーヒーなどの液体がかからないように注意してください。
- 保管する場合は、必ず専用のケースに入れてください。

🔍 POINT

- ▶ 本パソコンではLANカードまたは、モデムカードが使えない場合があります。
- ▶ 本パソコンでは、3.3Vまたは5Vを使用するPCカードのみサポートしています。12Vを使用するPCカードはサポートしていません。

PCカードをセットする

ここでは、PCカードのセットについて説明します。

⚠ 注意

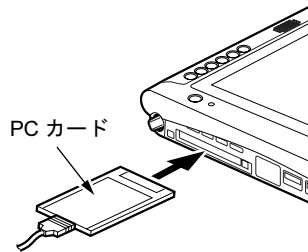


- PCカードをセットするときは、PCカードスロットに指を入れしないでください。けがの原因となることがあります。

🔍 POINT

- ▶ PCカードによっては、セットするときに電源を切る必要のあるものがあります。お使いになるPCカードのマニュアルで確認してください。
- ▶ PCカードによっては、ドライバのインストールが必要なものがあります。お使いになるPCカードのマニュアルをご覧になり、必要に応じてドライバをインストールしてください。

- 1** パソコン本体上側面のPCカードスロットに、PCカードをセットします。
PCカードの製品名を上にしてPCカードスロットにしっかり差し込みます。



重要

- ▶ PCカード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。PCカード取り出しボタンが飛び出した状態でPCカードをセットすると、ボタンが中に入らなくなります。また、ボタンが破損する原因となります。

POINT

- ▶ コード付きのPCカードをお使いの場合、PCカードとコードを接続しているコネクタ部分に物を載せたり、ぶついたりしないでください。破損の原因となります。
- ▶ 本パソコンにはPCカードのロック機構がありません。コード付きのPCカードや、ケーブルを接続しているPCカードは、コードやケーブルを引っ張らないでください。PCカードが抜けるおそれがあります。

PCカードを取り出す

ここでは、PCカードの取り出し方について説明します。

POINT

- ▶ コード付きのPCカードを取り出す場合、PCカードのコードを引っ張らないでください。破損の原因となります。
- ▶ PCカードを取り出す場合は、次の手順で行ってください。手順どおり行わないと、故障の原因となります。
- ▶ PCカードによっては、取り出すときに電源を切る必要のあるものがあります。PCカードのマニュアルで確認してください。

注意



高温

- PCカードの使用終了直後は、PCカードが高温になっている場合があります。PCカードを取り出すときは、手順3の後、しばらく待ってから取り出してください。火傷の原因となることがあります。



けが

- PCカードを取り出すときは、PCカードスロットに指などを入れしないでください。けがの原因となることがあります。

1 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをタップします。

POINT

- ▶ 通知領域の「ハードウェアの安全な取り外し」アイコンをダブルタップして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで、「停止」をタップして PC カードを取り出さないでください。パソコン本体の動作が不安定になる場合があります。

2 「XXXXXX を安全に取り外します」をタップします。

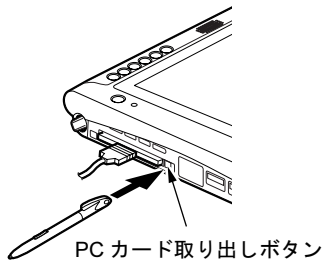
XXXXXX には、お使いの PC カードの名称が表示されます。

POINT

- ▶ 「デバイス' 汎用ボリューム' を今停止できません。後でデバイスの停止をもう一度実行してください。」というメッセージが表示された場合は、「OK」をタップし、PC カードにアクセスしていないことを確認した後、もう一度手順 1 からやり直してください。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたことを確認します。

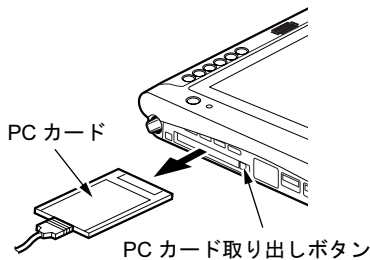
4 PC カード取り出しボタンを添付のペンの背で押します。



POINT

- ▶ 添付のペン先で押さないでください。破損の原因となります。

5 PC カードを取り出します。



重要

- ▶ PC カード取り出しボタンが飛び出している場合は、必ず押し込んでください。PC カード取り出しボタンが飛び出した状態で PC カードをセットすると、ボタンが中に入らなくなります。また、ボタンが破損する原因となります。

9 外部ディスプレイについて

接続について

本パソコンは、プロジェクターや CRT ディスプレイなどの外部ディスプレイを接続することができます。

ここでは、パソコン本体左側面の外部ディスプレイコネクタに、CRT ディスプレイを接続する場合について説明します。

⚠ 警告

感電



- 外部ディスプレイの接続／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。感電の原因となります。

⚠ 注意

故障



- ケーブル類の接続は、本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態で使用すると、パソコン本体および外部ディスプレイが故障する原因となることがあります。

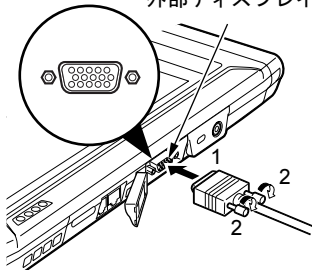
1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します (→『取扱説明書』)。

2 パソコン本体左側面の外部ディスプレイコネクタに、ディスプレイケーブルを接続します。

コネクタは正面から見ると台形になっています。

コネクタの形を互いに合わせてしっかり差し込み (1)、ディスプレイケーブルの左右のネジで固定します (2)。

外部ディスプレイコネクタ



POINT

- ▶ 外部ディスプレイは、別売のドッキングステーションの外部ディスプレイコネクタに接続することもできます。ただし、ドッキングステーション接続時には、パソコン本体の外部ディスプレイコネクタはお使いになれません。
- ▶ ドッキングステーション接続時には、必ずパソコン本体の外部ディスプレイコネクタからディスプレイケーブルを取り外してください。破損の原因となります。

- 3 CRT ディスプレイにディスプレイケーブルを接続します。
接続方法は、CRT ディスプレイのマニュアルをご覧ください。
- 4 CRT ディスプレイの電源ケーブルを接続して、電源を入れます。
- 5 パソコン本体に AC アダプタを取り付け、電源を入れます。

 **POINT**

- ▶ 外部ディスプレイを接続後パソコン本体の電源を入れると、次のようになることがあります。
 - ・パソコン本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時に表示される
 - ・「新しいハードウェアの追加ウィザード」ウィンドウが表示される
この場合は、画面の指示に従って外部ディスプレイのドライバをインストールしてください。
 - ▶ 外部ディスプレイなど磁界を発生する機器と FDD ユニットの離して使用してください。
- 6 画面の表示を切り替えます。
「Fn」+「ローテーション」ボタンを押すと起動する「Intel (R) 82830M Graphics Controller」のプロパティで表示を切り替えることができます。また、OS の「画面のプロパティ」でも切り替えることができます (→「機能」－「表示装置の切り替え」)。

10 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

警告

感電



- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行ってください。
 - ・パソコン本体の電源を切り、ACアダプタを取り外してください。
 - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。

汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。また、拭き取りの際は、パソコン本体に水が入らないよう十分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。

重要

- ▶ 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。

Memo

第 4 章

BIOS

4

BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためにパスワードを設定する方法についても説明しています。なお、BIOS セットアップの様子は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

1 BIOS セットアップとは	70
2 BIOS セットアップの操作のしかた	71
3 メニュー詳細	77
4 BIOS のパスワード機能を使う	83
5 BIOS が表示するメッセージ一覧	86

1 BIOS セットアップとは

BIOS セットアップとは、本パソコンの環境を設定するためのプログラムです。本パソコンご購入時は、すでに最適なハードウェア環境に設定されています。通常の使用状態では、BIOS セットアップで環境を設定（変更）する必要はありません。

BIOS セットアップの設定は、次の場合などに行います。

- 特定の人だけが本パソコンを使用できるように、パスワード（暗証番号）を設定するとき
- 省電力モード（電源を入れた状態で本パソコンを一定時間使用しなかったときに、消費電力を減らして待機している状態）を設定するとき
- 起動時の自己診断テスト (POST) で BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示されたとき

重要

- ▶ BIOS セットアップの設定項目の詳細については、BIOS セットアップ画面（→ P.71）の「項目ヘルプ」をご覧ください。
- ▶ OS により、設定する値が異なる項目があります（→ 『取扱説明書』）。

POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記憶されます。この CMOS RAM は、バックアップ用バッテリーによって記憶した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく設定しても、パソコン本体の起動時に「システム CMOS のチェックサムが正しくありません。標準設定値が設定されました。」というメッセージが表示される場合は、バックアップ用バッテリーが消耗して、CMOS RAM に設定内容が保存されていないことが考えられますので、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にご連絡ください。
- ▶ 起動時の自己診断テスト中は不用意に電源を切らないでください。
本パソコンは、自己診断テスト中の異常終了の回数を数えており、3 回続いた場合は 4 回目の起動時に「前回の起動が正常に完了しませんでした。」というメッセージを表示します。
- ▶ 起動時の自己診断テスト (POST (ポスト))
本パソコンの電源を入れたときや再起動したときに、ハードウェアの動作に異常がないかどうか、どのような周辺機器が接続されているかなどを自動的に調べます。これを「起動時の自己診断テスト」(POST: Power On Self Test) といいます。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

BIOS セットアップでは、すべての操作をキーボードで行います。

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 状態表示 LED のハードディスクアクセスランプが点灯していないことを確認し、本パソコンを再起動します。
- 3 「FUJITSU」のロゴマークが表示され、画面の下に「< ESC > 診断画面 / < F2 > BIOS セットアップ / < F12 > Boot メニュー」または「< タップ > 診断画面、< ダブル > BIOS セットアップ、< トリプル > Boot メニュー」と表示されている間に、「セキュリティボタン」を押すか、または画面の適当な場所をダブルタップしてください。

BIOS セットアップ画面が表示されます。

BIOS セットアップ画面の各部の名称と役割は、次のとおりです。

Phoenix BIOS セットアップユーティリティ									
メイン	詳細 セキュリティ 省電力 起動 情報 終了								
メニューバー メニューの名称が表示されます。	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目ヘルプ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>システム時刻: [12:34:56] システム日付: [XXXX/XX/XX]</td> <td>現在の時刻を、時:分:秒で設定します。(24時間制)</td> </tr> <tr> <td>▶ プライマリマスター [XXXXX XXXXXXXX]</td> <td><Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。</td> </tr> <tr> <td>言語 (Language): [日本語 (JP)]</td> <td><Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。</td> </tr> </tbody> </table>	項目ヘルプ		システム時刻: [12:34:56] システム日付: [XXXX/XX/XX]	現在の時刻を、時:分:秒で設定します。(24時間制)	▶ プライマリマスター [XXXXX XXXXXXXX]	<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。	言語 (Language): [日本語 (JP)]	<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。
項目ヘルプ									
システム時刻: [12:34:56] システム日付: [XXXX/XX/XX]	現在の時刻を、時:分:秒で設定します。(24時間制)								
▶ プライマリマスター [XXXXX XXXXXXXX]	<Tab>キー、<Enter>キーで右の項目に移動します。								
言語 (Language): [日本語 (JP)]	<Shift-Tab>キーで左の項目に移動します。								
カーソル 設定する項目に合わせます。									
項目ヘルプ カーソルを合わせた項目の説明が表示されます。									
設定フィールド 各メニューで設定する項目名と設定値が表示されます。									
キー一覧 設定時に使うキーの一覧です。	F1 ヘルプ ↑ 項目選択 ↓ - 値の変更 Space F9 標準設定 Esc 終了 ← メニュー選択 → Enter ▶ サブメニュー選択 F10 保存して終了								

 **POINT**

- ▶ BIOS セットアップの画面ではなく OS が起動してしまった場合は、起動が完了するのを待って、もう一度手順 2 からやり直してください。
- ▶ 手順 3 で「E-mail」ボタンを押すかまたは画面をトリプルタップすると、「起動メニュー」が表示され、起動するドライブを選択することができます。また、〈BIOS セットアップを起動〉を選択すると、BIOS セットアップの「メイン」メニューが表示されます。

起動メニュー
1. フロッピーディスクドライブ
2. ハードディスクドライブ
3. オプティカルメディアドライブ
〈BIOSセットアップを起動〉

設定を変更する

BIOS セットアップの各設定は、ペンまたは別売のキーボードで行います。ここでは一般的な操作方法を説明します。

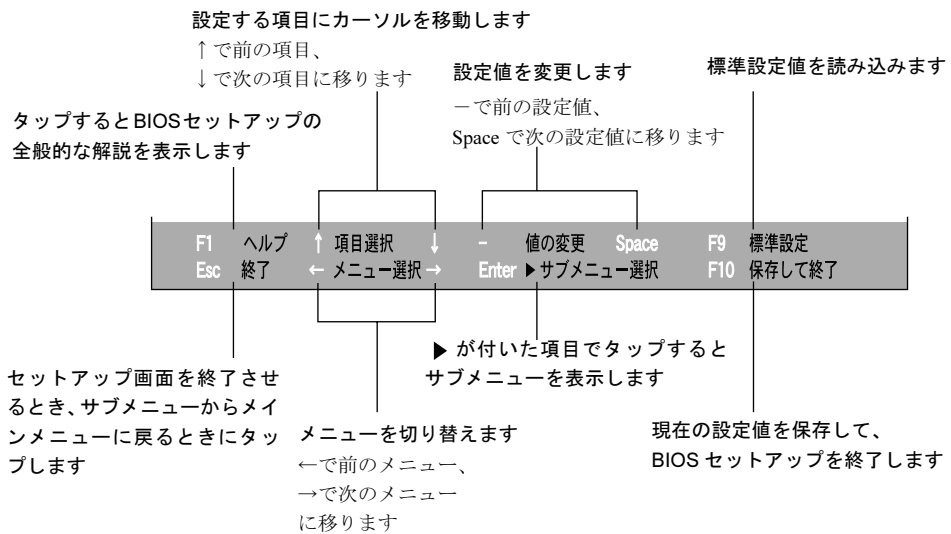
■ ペンで設定する場合

POINT

- ▶ ペンで軽く画面を1回押すことをタップ、2回続けて押すことをダブルタップといいます。

ペンで設定する場合は、設定したい項目を直接タップするか、セットアップ画面の下端に表示されている設定バーをタップします。

- 項目を直接操作する場合
変更したい項目の設定値をタップすると、設定値が反転表示されます。再度タップすると、次の設定値が表示されます。希望の設定値が表示されるまでタップしてください。
- 設定バーで操作する場合
次のように割り当てられています。各項目をタップして、設定値を変更します。



POINT

- ▶ サブメニューを表示しているときはメニューバーの「サブメニュー終了」をタップしても、1つ上のメニュー画面に戻ります。

■ キーボードで設定する場合

- 1 【←】キーまたは【→】キーでカーソルを移動し、設定したいメニューを選びます。
選択したメニュー画面が表示されます。
- 2 【↓】キーまたは【↑】キーでカーソルを移動し、設定したい項目を選びます。

3 【Space】キーまたは【-】キーを押して、選択している項目の設定値を変更します。

続けて他の設定項目を変更する場合は、手順1～3を繰り返してください。

4 設定を保存して終了します。

「BIOS」－「BIOS セットアップを終了する」(→ P.76)

 **重要**

- ▶ BIOS セットアップは正確に設定してください。
設定を間違えると、本パソコンが起動できなくなったり、正常に動作しなくなることがあります。
このような場合には、変更した設定値を元に戻すか、ご購入時の設定に戻して本パソコンを起動し直してください。

 **POINT**


- ▶ 設定内容を変更前の値に戻す方法は、「BIOS」－「終了メニュー」(→ P.82)をご覧ください。
- ▶ 設定内容をご購入時の設定値に戻す方法は、「ご購入時の設定に戻す」(→ 『取扱説明書』)をご覧ください。
- ▶ 項目名に「▶」が付いている項目にはサブメニューがあります。
サブメニューが表示しているときは、メニューバーの「サブメニューの終了」をタップしても元のメニュー画面に戻ります。

各キーの役割

設定時に使用するキーの役割は、以下のとおりです。

【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Fn】 + 【↑】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、前ページに移動します。
【Fn】 + 【↓】キー	複数ページにわたるメニュー画面で、次ページに移動します。
【Fn】 + 【←】キー	メニュー内の最初の項目にカーソルを移動します。
【Fn】 + 【→】キー	メニュー内の最後の項目にカーソルを移動します。
【F5】キー、【-】キー	各項目の設定を1つ前の設定値に変更します。
【F6】キー、【Space】キー	各項目の設定を次の設定値に変更します。
【←】キー、【→】キー	メニューを切り替えます。
【Enter】キー	▶印が付いた項目のサブメニュー画面を表示します。また、「終了」メニューなどでは、各項目の処理を行います。設定する項目で押すと、設定値が一覧で表示されます。
【F9】キー	標準設定値を読み込みます。
【F10】キー	現在の設定値を保存して、BIOSセットアップを終了します。
【Esc】キー、 【Alt】 + 【X】キー	「終了」メニューを表示します。また、サブメニュー画面でこれらのキーを押すと、1つ上のメニュー画面に戻ります。
【F1】キー、 【Alt】 + 【H】キー	一般ヘルプ画面を表示します。同じキーを再度押すか、【Esc】キーを押せば閉じます。

POINT

▶ ここでいう【-】キーは  のことです。

BIOS セットアップを終了する

変更した設定を有効にするためには、設定内容を CMOS RAM に保存しておく必要があります。以下の操作を行い、設定内容を保存してから BIOS セットアップを終了してください。

1 「終了」をタップします。

「終了」メニューが表示されます。

2 「変更を保存して終了する」をタップします。

次のメッセージが表示されます。

セットアップ確認	
変更した内容を保存して終了しますか？	
<input checked="" type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ

3 「はい」をタップします。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

POINT

- ▶ サブメニューを表示している場合は、「終了」メニューが表示されるまで、「サブメニュー終了」をタップしてください。
- ▶ 設定を変更しないで終了する場合は、「終了」メニューで「変更を保存せずに終了する」を選択して終了してください（→ P.82）。
- ▶ いったん設定内容を保存したあと、続けて他の項目を設定する場合は、「終了」メニューで「変更を保存する」を選択してください（→ P.82）。
 1. 「終了」メニューの「変更を保存する」をタップします。
「変更した内容を保存しますか？」というメッセージが表示されます。
 2. 「はい」をタップします。

3 メニュー詳細

メインメニュー

「メイン」メニューでは、日時の設定と、ドライブやメモリの機能などの設定を行います。

システム時刻

システム日付

プライマリマスター

POINT

- ▶ 「終了」メニューの「標準設定値を読み込む」(→ P.82) を実行した直後は、「プライマリマスター」の項目の自動設定が行われていません。BIOS セットアップを再起動すると、各項目が自動設定されます。

● タイプ

POINT

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。

- 最大容量
- マルチセクタ転送
- LBA モード制御
- PIO 転送モード
- DMA 転送モード

言語 (Language)

POINT

- ▶ 設定と同時に画面表示が切り替わり、次に設定を変更するまで同じ言語で表示されます。

詳細メニュー

「詳細」メニューでは、周辺機器の設定などを行います。

赤外線通信ポート

- モード

POINT

- ▶ 「FIR」に設定する場合は、高速モードに対応した赤外線通信用ソフトが必要です。また、FIR用の「I/Oアドレス」と「DMAチャンネル」も設定してください。

- ・ InDA I/O アドレス /IRQ 番号
- ・ I/O アドレス
- ・ DMA チャンネル

POINT

- ▶ 「DMAチャンネル」は、「モード」の項目を「FIR」に設定しているときに表示されます。通常「DMAチャンネル」は「DMA 1」に設定してください。「DMA 3」は、標準設定値では赤外線通信ポートのFIR用に割り当てられています。

キーボード設定

- 起動時の Numlock 設定

ディスプレイ設定

- ディスプレイ

POINT

- ▶ 本パソコンの起動後は、キーボード操作や「画面のプロパティ」で画面表示を切り替えることができます（→「機能」－「表示装置の切り替え」）。

その他の内蔵デバイス設定

- IDE コントローラ
- 内蔵 LAN デバイス

POINT

- ▶ 本項目が「自動」に設定されている場合、バッテリー運用で本パソコンを起動すると、本パソコンは LAN ケーブルの接続を確認します。このとき、LAN ケーブルが接続されていないと、本パソコンは省電力のため内蔵 LAN デバイスを使用禁止にします。

- 無線 LAN デバイス

PCI 設定

- 割り込み番号の予約
 - ・ IRQ 3 ~ IRQ 15

□ CPU 設定

- SpeedStep (R) テクノロジー
 - ・ バッテリ運用時
 - ・ AC 運用時

□ イベントログ設定

- イベントログ領域の状態
- イベントログ内容の状態
- イベントログの表示

POINT

- ▶ イベントログメッセージで、「POST エラー : XXXXXXXX XXXXXXXX」というメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」にご連絡ください。それ以外のメッセージは、本パソコンの使用には特に問題のないメッセージです。

- イベントログ
 - ・ システム起動
- イベントログの消去
- イベントログのマーク

セキュリティメニュー

「セキュリティ」メニューでは、本パソコンを特定の人だけが使用できるよう設定を行います。

□ 管理者用パスワード

□ ユーザー用パスワード

□ 管理者用パスワード設定

POINT

- ▶ 次の項目は、管理者用パスワードが設定されている場合に設定できます。
 - ・ ユーザー用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード文字数
 - ・ 起動時のパスワード
 - ・ 取外し可能なディスクからの起動
 - ・ フロッピーディスクアクセス
 - ・ ハードディスクセキュリティ
 - ・ 所有者情報

□ ユーザー用パスワード設定

POINT

- ▶ 管理者用パスワードとユーザー用パスワードの両方が設定されている状態で、ユーザー用パスワードで BIOS セットアップに入ると、設定値がグレーで表示される項目があります。グレー表示される項目は、ユーザー用パスワードでは変更できません。

ユーザー用パスワード文字数

POINT

- ▶ 本項目はユーザー用パスワードでBIOSセットアップに入った場合のみ有効です。管理者用のパスワードでBIOSセットアップに入った場合は、最低文字数より少ない文字をユーザー用パスワードとして設定することができます。

起動時のパスワード

取外し可能なディスクからの起動

フロッピーディスクアクセス

POINT

- ▶ 本項目は、BIOS 経由でアクセスしない OS (Windows XP など) では、正しく動作しません。

ハードディスクセキュリティ

- プライマリマスター

重要

- ▶ 本パソコンでセキュリティを設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。

所有者情報

POINT

- ▶ 管理者用パスワードが設定されていない場合は、「所有者情報」の各項目は表示されますが、選択できません。

- 所有者情報
- 所有者情報設定
- 文字色
- 背景色

ハードディスク起動セクタ

POINT

- ▶ OS をインストールするときは、必ず「通常動作」に設定してください。
- ▶ この設定は、BIOS を経由しないで直接ハードディスクにアクセスする OS (Windows XP など) では、正しく動作しません。

省電力メニュー

「省電力」メニューでは、省電力モードに関する設定を行います。

省電力モードは、本パソコンの電源を入れた状態で一定時間使用しなかった場合に、消費する電力を減らして待機する機能です。

POINT

- ▶ BIOS セットアップでは「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「Save To Disk」と表記しています。

自動 Save To Disk

LAN によるレジューム

POINT

- ▶ BIOS セットアップと OS の両方で設定されている場合のみ有効です。

起動メニュー

「起動」メニューでは、本パソコンの起動時の動作についての設定を行います。

高速起動

起動時の自己診断画面

ネットワークサーバからの起動

起動デバイスの優先順位

- フロッピーディスクドライブ
- ハードディスクドライブ
- オプティカルメディアドライブ
- Realtek Boot Agent

POINT

- ▶ 利用可能な起動デバイスが、起動時の検索順序の高い順に表示されます。ただし、「Realtek Boot Agent」は、「ネットワークサーバからの起動」が「使用する」に設定されている場合に表示されます。なお、「ネットワークサーバからの起動」を「使用する」に設定した場合、「Realtek Boot Agent」の優先順位は、再起動後に設定可能となります。

情報メニュー

「情報」メニューには、BIOS セットアップやパソコン本体についての情報が表示されます。設定を変更することはできません。

- BIOS 版数**
- BIOS 日付**
- BIOS 領域**
- CPU タイプ**
- CPU 速度**
- L1 キャッシュ**
- L2 キャッシュ**
- 全メモリ容量**
 - 標準メモリ
 - メモリスロット

終了メニュー

「終了」メニューでは、設定値の保存や読み込み、BIOS セットアップの終了などを行います。

変更を保存して終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存して BIOS セットアップを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定した内容を CMOS RAM に保存しないで BIOS セットアップを終了します。

標準設定値を読み込む

すべての項目を標準設定値にします。

変更前の値を読み込む

すべての項目について、CMOS RAM から変更前の値を読み込み、変更を取り消します。

変更を保存する

変更した内容を CMOS RAM に保存します。

4 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。

本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使用できなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

- 管理者用パスワード
本パソコンをご購入になった方などが使用するパスワードです。パスワード機能を使用するときは必ず設定してください。
- ユーザー用パスワード
「管理者」以外で本パソコンをお使いになる方が使用するパスワードです。「管理者用パスワード」を設定した場合のみ設定できます。

パスワードを設定する

パスワードの設定は、BIOS セットアップで行います。パスワードの設定方法は、次のとおりです。

- 1 BIOS セットアップを起動します。**
「BIOS」－「BIOS セットアップを起動する」(→ P.71)
- 2 セキュリティメニュー (→ P.79) で設定したいパスワードを選択して「Enter」をタップします。**
 - ・ 管理者用パスワード設定
 - ・ ユーザー用パスワード設定パスワード入力用のウィンドウが表示されます。
- 3 8桁までのパスワードを入力します。**
入力できる文字種はアルファベットと数字です。
入力した文字は表示されず、代わりに「■」が表示されます。
また、ユーザー用のパスワードの最低文字数は、「ユーザー用パスワード文字数」(→ P.80) で設定することができます。

4 パスワードを入力したら【Enter】キーをタップします。

「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。

5 手順3で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーをタップします。

「セットアップ通知」と書かれたウィンドウが表示されます。

6 「継続」をタップして、設定を終了します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。「継続」をタップして、手順3からやり直してください。

パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーをタップしてください。

■ パスワード設定後のパソコンの起動

パスワードを設定すると、設定状態によって次の場合にパスワードの入力を要求されます。

- BIOS セットアップを起動するとき
- 本パソコンを起動するとき

パスワードの入力を要求するウィンドウが表示されたら、パスワードを入力し、【Enter】キーをタップしてください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「電源オプションのプロパティ」で、スタンバイや休止状態からの回復時にパスワードを入力するように設定した場合は、レジャーム時のパスワードを設定できます。ただし、この場合は Windows のパスワードを入力してください。

重要

- ▶ ハードディスクセキュリティ (→ P.80) を設定したハードディスクは、他のパソコンに接続しても使用できません。他のパソコンに接続して使用する場合は、本パソコンで設定した管理者用パスワード、ユーザー用パスワードの設定が必要となります。パスワードを忘れるとそのハードディスクは使用できなくなるので、ご注意ください。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れるとパスワード機能を解除できなくなり、修理が必要になります。設定したパスワードを忘れないように何かに書き留め、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。なお、管理者用パスワードを忘れてしまった場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」までご連絡ください。

パスワードを変更／削除する

■ パスワードを変更する

設定したパスワードを変更するときは、次の操作を行ってください。

- 1** 「パスワードを設定する」の手順 1～2 (→ P.83) を行います。
- 2** 設定してあるパスワードを入力し、【Enter】キーをタップします。
「新しいパスワードを入力して下さい。」にカーソルが移ります。
- 3** 8桁までの新しく設定したいパスワードを入力し、【Enter】キーをタップします。
「新しいパスワードを確認して下さい。」にカーソルが移り、パスワードの再入力を求められます。
- 4** 手順 3 で入力したパスワードを再度入力して【Enter】キーをタップします。
「変更が保存されました。」というウィンドウが表示されます。
- 5** 「継続」をタップして、設定を終了します。
再入力したパスワードが間違っていた場合は、「セットアップ警告」と書かれたウィンドウが表示されます。「継続」をタップして、手順 3 からやり直してください。
パスワードの設定を中止するときは、【Esc】キーをタップしてください。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを 3 回入力すると、「システムは使用できません」と表示されて、警告音が鳴ります。この場合は、キーボードが一切反応しなくなるので、本パソコンの電源をいったん切ってから再び電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。

■ パスワードを削除する

設定したパスワードを削除するときは、「パスワードを変更する」の手順 3～4 で何も入力せずに、【Enter】キーをタップしてください。

POINT

- ▶ ユーザーがユーザー用パスワードを削除できるのは、ユーザー用パスワード文字数設定が 0 のときだけです。0 以外のときは、パスワード文字数不足のメッセージが表示されます。

5 BIOSが表示するメッセージ一覧

メッセージが表示されたときは

エラーメッセージが表示された場合は、次の手順に従って処置をしてください。

1 BIOS セットアップを再実行します。

BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップの、各項目を正しい値に設定してください。

それでもメッセージが表示される場合には、BIOS セットアップの設定値をご購入時の設定に戻して起動し直してください（→『取扱説明書』）。

2 周辺機器を取り外します。

周辺機器を取り付けている場合には、すべての周辺機器を取り外し、パソコン本体をご購入時の状態にして動作を確認してください。

それでも同じメッセージが表示される場合には、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

3 取り外した周辺機器を、1つずつ取り付けます。

取り外した周辺機器を1つずつ取り付けて起動し直し、動作を確認してください。

また、割り込み番号（IRQ）を使用する周辺機器を取り付けたときは、割り込み番号が正しく割り当てられるように、設定を確認してください。このとき、各周辺機器のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合にはそれらのマニュアルも、あわせてご覧ください。

上記の処理を実行しても、まだ同じメッセージが表示される場合は、本パソコンが故障している可能性があります。「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンは、自動的に故障を検出します。故障の検出は、通常 POST（→ P.70）時に行われます。本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

POINT

- ▶ メッセージ中の「n」、「x」、「z」には数字が表示されます。

■ 正常時のメッセージ

- < ESC > 診断画面 / < F2 > BIOS セットアップ / < F12 > Boot メニュー
起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に【Esc】キーを押すと起動時の自己診断画面が表示され、「E-mail」ボタンを押すと「起動メニュー」画面（→ P.72）が表示されます。また、「セキュリティ」ボタンを押すと BIOS セットアップが起動します。
- < タップ > 診断画面、< ダブル > BIOS セットアップ、< トリプル > Boot メニュー
起動時の「FUJITSU」のロゴマークが表示されているとき、画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に画面上をタップすると起動時の自己診断画面が表示され、ダブルタップすると BIOS セットアップが起動します。また、トリプルタップすると「起動」メニュー画面が表示されます。
- < F12 >、トリプル：起動メニュー / < F2 >、ダブル：BIOS セットアップ
起動時の自己診断画面の下に表示されます。このメッセージが表示されている間に「E-mail」ボタンを押すか、画面上をトリプルタップするか、または【F12】キーを押すと「起動メニュー」画面（→ P.72）が表示されます。「セキュリティ」ボタンを押すか、画面上をダブルタップするか、【F2】キーを押すと BIOS セットアップが起動します。
- BIOS セットアップを起動しています ...
BIOS セットアップの起動中に表示されます。
- CPU=Mobile Intel (R) Pentium (R) III processor 933 MHz
- NnnnK システムメモリテスト完了。
システムメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- NnnnM 拡張メモリテスト完了。
拡張メモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- NnnnnK メモリキャッシュテスト完了。
キャッシュメモリのテストが、正常に完了したことを示しています。
- システム BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
システム BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ビデオ BIOS がシャドウメモリにコピーされました。
ビデオ BIOS が、シャドウ用のメモリに正常にコピーされたことを示しています。
- ペンが初期化されました。
ペンが初期化され、使えるようになったことを示しています。
- ハードディスク C：*****
ハードディスクが正常に認識できたことを示しています。
- 1394：*****
ドッキングステーション内蔵の光学ドライブが正常に認識できたことを示しています。
- マウスが初期化されました。
マウス機能が初期化され、使えるようになったことを示しています。

POINT

- ▶ 正常時のメッセージを表示させる場合は、「FUJITSU」のロゴマークが表示されているときに、タップするかまたは「ESC」ボタンを押します。また、常に表示させる場合は、「起動」メニューの「起動時の自己診断画面」(→P.81)の項目を「使用する」に設定してください。

■ エラーメッセージ

- システムメモリエラー。オフセットアドレス : xxxx
誤りビット : zzzz zzzz
システムメモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、このパソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
メモリを取り外しても本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- 拡張メモリエラー。オフセットアドレス : xxxx
誤りビット : zzzz zzzz
拡張メモリのテスト中に、アドレス xxxx でエラーが発見されたことを示しています。メモリを増設しているときは、メモリが正しく取り付けられているか、または弊社純正品かを確認してください。
それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- メモリキャッシュのエラーです。-- キャッシュは使用できません。
キャッシュメモリのテスト中に、エラーが発見されたことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボードコントローラのエラーです。
キーボードコントローラのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- キーボードエラーです。
キーボードテストで、エラーが発生したことを示しています。
テンキーボードや外付けキーボードを接続しているときは、正しく接続されているかを確認し、もう一度電源を入れ直してください。それでも本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- フロッピーディスク A のエラーです。
フロッピーディスクドライブのテストで、エラーが発生したことを示しています。
もう一度電源を入れ直してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- ディスクエラーです。: ハードディスク n
ハードディスクドライブの設定に誤りがあることを示しています。
BIOS セットアップを起動し、「メイン」メニューの「プライマリマスター」の各項目が正しく設定されているか、確認してください。電源を入れ直しても本メッセージが表示される場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **システムタイマーのエラーです。**

システムタイマーのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **リアルタイムクロックのエラーです。**

リアルタイムクロックのテストで、エラーが発生したことを示しています。
電源を入れ直しても本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **システム CMOS のチェックサムが正しくありません。 - 標準設定値が設定されました。**

CMOS RAM のテストでエラーが発見されたため、いったん標準設定値が設定されたことを示しています。
「セキュリティ」ボタンを押すか、画面上をタップするか、【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、標準設定値を読み込んだあと、設定を保存して起動し直してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **前回の起動が正常に完了しませんでした。 - 標準設定値が設定されました。**

前回の起動時に正しく起動されなかったため、一部の設定項目が標準設定値で設定されたことを示しています。
起動途中で電源を切ってしまうたり、または BIOS セットアップで誤った値を設定して起動できなかったとき、3 回以上同じ操作で起動し直したときに表示されます。そのまま起動する場合は【F1】キーを押してください。この場合、最低限の設定になるため、動作が遅くなりますのでお勧めしません。BIOS セットアップを起動して設定を確認する場合は、「セキュリティ」ボタンを押すか、画面上をダブルタップするか、【F2】キーを押してください。
- **< F1 > , タップ : 継続 / < F2 > , ダブル : BIOS セットアップ**

起動時の自己診断テストでエラーが発生したとき、OS を起動する前に本メッセージが表示されます。【F1】キーを押すか、または画面上をタップすると発生しているエラーを無視して OS の起動を開始します。「セキュリティ」ボタンを押すか、画面上をダブルタップするか、または【F2】キーを押すと BIOS セットアップを起動して設定を変更することができます。
- **日付と時刻の設定を確認してください。**

日付と時刻の設定値が正しくありません。
設定値を確認し、正しい値を設定し直してください。
- **パスワードロックされています。 : ハードディスク n**

取り付けられたハードディスクドライブが、パスワードロック機能で保護されていることを示しています。そのハードディスクドライブが取り付けられていたパソコンと同じ「管理者用パスワード」を、本パソコンにも設定してください。パスワードがわからない場合は、そのハードディスクドライブは使用できません。
- **サポートされないタイプのメモリが検出されました。**

本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
メモリを増設しているときは、本パソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

- **メモリタイプのエラーです。 : SPD が 66MHz/100MHz のメモリを示しています。**
本システムには 133MHz のメモリが必要です。電源を切ってください。
本パソコンでサポートされていないメモリが取り付けられていることを示しています。
メモリを増設しているときは、本パソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。**
システムを正しく動作させるためには SPD が必要です。
メモリ速度 133MHz で起動しますか？
< Enter > ボタンを押すとこのまま起動し、< ESC > を押すとシステムを停止します。
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
「ESC」 ボタンを押して電源を切り、メモリを増設しているときは、本パソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。 - メモリ速度が不明です。**
メモリ速度 133MHz で起動します。
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。
メモリを増設しているときは、本パソコンでサポートしているメモリが取り付けられていることを確認してください。
それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **SPD が見つかりませんでした。 - データが正しくありません。**
メモリの SPD データを検出できなかったことを示しています。本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **NVRAM データが正しくありません。**
NVRAM データのテストでエラーが発見されたことを示しています。
「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
- **Invalid system disk**
Replace the disk, and then press any key
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、「ローテーション」 ボタンなどを押してください。
- **Non-System disk or disk error**
Replace and press any key when ready
フロッピーディスクドライブに、起動ディスク以外のフロッピーディスクをセットしたまま、電源を入れたときに表示されます。
フロッピーディスクを取り出して、「ローテーション」 ボタンなどを押してください。
- **Operating system not found**
OS が見つからなかったことを示しています。
BIOS セットアップの「起動」メニューの設定が正しいか、指定したドライブに OS が正しくインストールされているかを確認してください。

- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E53:No boot filename received**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーから、起動時に必要な IP アドレスまたは boot filename を取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E78:Could not locate boot server**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバーがないか、正しく動作していません。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E89:Could not download boot image**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバー上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

- **PXE-E32:TFTP open timeout**

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバーを正しく設定するか、BIOS セットアップで「ネットワークサーバからの起動」を「使用しない」に設定してください。それでも本メッセージが表示されるときは、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元に連絡してください。

POINT

- ▶ 本書に記述されていないシステムエラーメッセージが表示された場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

Memo

第 5 章

技術情報

5

本パソコンの仕様などを記載しています。

1 仕様一覧	94
2 コネクタのピン配列と信号名	97

1 仕様一覧

本体仕様

製品名称		FMV-STYLISTIC TB93/B 注1
CPU 注2		超低電圧版モバイルインテル® Pentium® III プロセッサ 933 MHz
キャッシュメモリ		1次 32KB + 2次 512KB (CPU 内蔵)
チップセット		インテル® 830MG チップセット
システムバスクロック		133MHz
メインメモリ		標準 256MB (PC133 SDR SDRAM DIMM) ECC なし 最大 768MB
拡張メモリスロット		× 1 (空きスロット× 1)
表示機能	グラフィックアクセラレータ	チップセットに内蔵
	ビデオメモリ	最小 8MB / 最大 48MB (メインメモリと共用) 注3
	液晶ディスプレイ注4	10.4 型 TFT カラー 1024 × 768 ドット
	解像度/発色数	液晶ディスプレイ表示: 1024 × 768 ドット / 1677 万色注5 外部ディスプレイ表示: 最大 1600 × 1200 ドット / 最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示: 1024 × 768 ドット / 1677 万色注5
フロッピーディスクドライブ		FDD ユニット (USB) (別売) 注6
ハードディスクドライブ注7		40GB (Ultra ATA/100)
オーディオ機能	オーディオコントローラ	チップセット内蔵 + AC97 コーデック
	PCM 録音再生機能	サンプリング 周波数最大 48kHz、16 ビットステレオ、同時録音再生対応
	MIDI 再生機能	OS 標準機能にてサポート
	スピーカー	モノラルスピーカー内蔵
ポインティングデバイス		電磁誘動式タッチパネル
タブレットボタン		× 6 (プログラマブル× 2)
通信機能	モデム	データ: 最大 56kbps (V.90 規格準拠) 注8 / FAX: 最大 14.4kbps
	LAN	100BASE-TX/10BASE-T 準拠
	ワイヤレス LAN	IEEE802.11b 準拠 (Wi-Fi 準拠) 注9

製品名称		FMV-STYLISTIC TB93/B 注1	
インターフェース	本体	PC カード	PC Card Standard 準拠 Type I/II × 1 スロット (CardBus 対応)
		外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン × 1
		USB	USB1.1 準拠 × 2 注10
		IEEE1394	4 ピン × 1 (S400)
		モデム	RJ-11 × 1 注8
		LAN	RJ-45 × 1
		赤外線	IrDA1.1 準拠 (最大 4Mbps) × 1 キーボード × 1 (別売のワイヤレスキーボード専用)
		オーディオ	マイク : φ 3.5mm モノラル・ミニジャック、 ヘッドホン : φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック
		ドッキングステーション	専用コネクタ 100 ピン × 1
	状態表示	LED	
	ドッキングステーション	外部ディスプレイ	アナログ RGB Mini D-SUB 15 ピン × 1
		USB	USB1.1 準拠 × 3 注10
		IEEE1394	4 ピン × 1 (S400)
		LAN	RJ-45 × 1
		オーディオ	ラインアウト : φ 3.5mm ステレオ・ミニジャック
		CD/DVD ドライブ	CD-RW/DVD-ROM ドライブ (マルチベイ接続) CD-ROM 読出 : 最大 24 倍速、CD-R 書込 : 最大 24 倍速、 CD-RW 書込 / 書換 : 最大 10 倍速、DVD-ROM 読出 : 最大 8 倍速
	電源供給方式	AC アダプタ	入力 AC100V ~ 240V、出力 DC16V (3.75A)
		バッテリー	内蔵バッテリーパック : リチウムイオン 10.8V/4000mAh、
	バッテリー稼働時間注11 (JEITA 測定法 1.0)		約 4.4 時間 (内蔵バッテリーパック)
バッテリー充電時間注12		約 3.5 時間 (内蔵バッテリーパック)	
消費電力注13		約 14W / 約 45W	
省エネ法に基づくエネルギー消費効率注14		S 区分 0.00041	
外形寸法		W301.3 × D220 × H22.3mm (突起部含まず)	
質量		約 1.48kg	
盗難防止用ロック		あり	
温湿度条件		温度 5 ~ 35 °C / 湿度 20 ~ 85%RH (動作時)、 温度 -15 ~ 60 °C / 湿度 8 ~ 85%RH (非動作時) (ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと)	
プレインストール OS		Windows XP Tablet PC Edition (DirectX 9.0 対応)	

(本パソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。)

注について

注1 : 本パソコンの技術基準適合認証番号は、01NYDA1289、A01-0994JP です。

注2 : アプリケーションによっては CPU 名表記が異なる場合があります。

注3 : Intel® Dynamic Video Memory Technology (DVMT) により、パソコンの動作状態によって VRAM 容量が変化します。

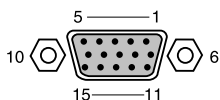
注4 : 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面上の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- ・本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。

- 注5： 液晶ディスプレイでは、ディザリング機能（擬似的に色を表示する機能）によって、1677万色で表示されます。
- 注6： フロッピーディスクは、フォーマットした環境（メーカー、機種、ソフトウェア）によっては、データを読み書きできない場合があります。対応メディアは、2HD（1.44MB, 1.2MB）と 2DD（720KB）です。なお、1.44MB 以外のフォーマットはできません。
- 注7： 容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算値です。
- 注8： 56000bps は V.90 の理論上の最高速度であり、実際の通信速度は回線の状況により変化します。V.90 の 33600bps を超える通信速度は受信時のみで、送信時は 33600bps が最高速度となります。また、日本国内の一般公衆回線、あるいは構内交換機経由での通信においては同規格での通信が行えない場合があります。
- 注9： Wi-Fi 準拠とは、ワイヤレス LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance」の相互接続性テストに合格していることを示しています。
- 注10：
- ・ すべての USB 規格対応のオプション機器について、動作保証するものではありません。
 - ・ 外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。
- 注11： 社団法人 電子情報技術産業協会の『JEITA バッテリー動作時間測定法（Ver1.0）』（<http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html>）。なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。
- 注12： 電源 OFF またはスタンバイ時。装置の動作状況により、充電時間が長くなる場合があります。
- 注13：
- ・ 動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）／最大消費電力です。
また、AC アダプタ運用時の消費電力です。
 - ・ 電源 OFF 時の消費電力は、約 1W 以下（満充電時）です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 注14： スタンバイ時（充電なし。AC アダプタを含む）。なお、エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

2 コネクタのピン配列と信号名

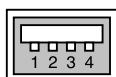
■ 外部ディスプレイコネクタ（ミニ D-SUB15 ピン、メス）



ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5～8	GND	—	グラウンド
9	+5V	—	電源 ^注
10	GND	—	グラウンド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	シリアルデータライン
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	シリアルクロックライン

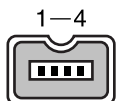
注：MAX 300mA

■ USB コネクタ



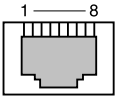
ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	- DATA	入出力	-データ信号
3	+ DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

■ IEEE1394 端子



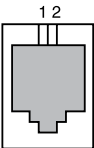
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TPB -	入出力	-データ信号
2	TPB +	入出力	+データ信号
3	TPA -	入出力	-データ信号
4	TPA +	入出力	+データ信号

■ LAN コネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD +	出力	送信データ+
2	TD -	出力	送信データ-
3	RD +	入力	受信データ+
4	NC	-	未接続
5	NC	-	未接続
6	RD -	入力	受信データ-
7	NC	-	未接続
8	NC	-	未接続

■ モデムコネクタ (モデム)



ピン番号	信号名	方向	説明
1	LINE1	入出力	公衆回線に接続
2	LINE2	入出力	公衆回線に接続

索引

B

BIOS セットアップ	70
-各キーの役割	75
-起動する	71
-終了する	76
-設定を変更する	73
BIOS セットアップ画面	71
BIOS のパスワード機能を使う	83

C

CD	52
CD アクセスランプ	18
CD 取り出しボタン	18

D

DC-IN コネクタ	13, 19
DVD-ROM&CD-R/RW ドライブ	18

E

E-mail ボタン	22
Enter ボタン	22
Esc ボタン	22

F

Fn ボタン	22
--------	----

I

IEEE1394 端子	15, 18, 97
-------------	------------

L

LAN コネクタ	13, 19, 98
LOW バッテリー状態	48

P

Page Up/Page Down ボタン	11
PC カード	62
PC カードスロット	14
PC カード取り出しボタン	14
POST	70

U

USB キーボード	43
USB コネクタ	15, 18, 97

あ行

液晶ディスプレイ	10
-お手入れ	67
エラーメッセージ	88

か行

カーソルボタン	11
外部ディスプレイ	65
外部ディスプレイコネクタ	13, 19, 97
拡張 RAM モジュールスロット	16
角度調節バー	18
角度調節バー固定／解除ボタン	18
管理者用パスワード	83
キーボード	40
起動時の自己診断テスト	70
起動メニュー	81
コア	51
コネクタのピン配列と信号名	97

さ行

充電する	46
周辺機器	36
終了メニュー	82
詳細メニュー	78
状態表示 LED	10, 20
省電力メニュー	81
情報メニュー	82
スピーカー	11
正常時のメッセージ	87
赤外線通信ポート	15
セキュリティ	26
セキュリティボタン	22
セキュリティメニュー	79

た行

タッチパネル	37
タップ	38
ダブルタップ	38
タブレットボタン	11, 22

テンキーモード	45
電源ボタン	11
電源ランプ	20
盗難防止用ロック	13, 18
ドッキングステーション	17
— 取り付ける	56
— 取り外す	58
ドッキングステーション接続	
コネクタ	16
ドラッグ	38
トリプルタップ	38

な行

内蔵バッテリーパック	16
内蔵バッテリーパックロック	16
内蔵マイク	11
内蔵ワイヤレス LAN アンテナ	13

は行

ハードウェアのお手入れ	67
ハードディスクアクセスランプ	21
排気孔	12, 18
パスワード (BIOS)	83
— 削除する	85
— 設定する	83
— 変更する	85
パソコン本体のお手入れ	67
バッテリー	46
— LOW バッテリー状態	48
— 異常表示	47
— 運用する	46
— 残量表示	47
— 充電する	46
— 取り扱い上の注意	49
バッテリー温度アラーム	20
バッテリー残量表示ランプ	21
バッテリー充電表示ランプ	20
バッテリーパック	
— 交換する	50
ヘッドホン端子	15
ペン先の交換方法	39
ペン収納スロット	12
ペンひも取り付け用穴	14
ポインティングデバイス	37
ポイント	38
本体接続コネクタ	18

ま行

マイク端子	14
右タップ	38
メインメニュー	77
メッセージ一覧	87
メッセージが表示されたとき	86
メモリ	59
モデムコネクタ	13, 98

や行

ユーザー用パスワード	83
------------	----

ら行

ラインアウト端子	19
ローテーションボタン	22
ロック解除ボタン	18
ロックレバー	18

わ行

ワイヤレスキーボード	40
— ID の設定	41
— 電池交換	42
ワイヤレスキーボード受光部	11
ワイヤレススイッチ	16

FMV-STYLISTIC TB93/B

ハードウェアガイド
B5FH-7861-01-01

発行日 2003年5月
発行責任 富士通株式会社

- このマニュアルの内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- このマニュアルに記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。